

安田式遊具

誕生物語

マンガ



画 河村万理

昭和60年



戦後
豊かになっていく中
子供たちの身体に
異変がはじめていた





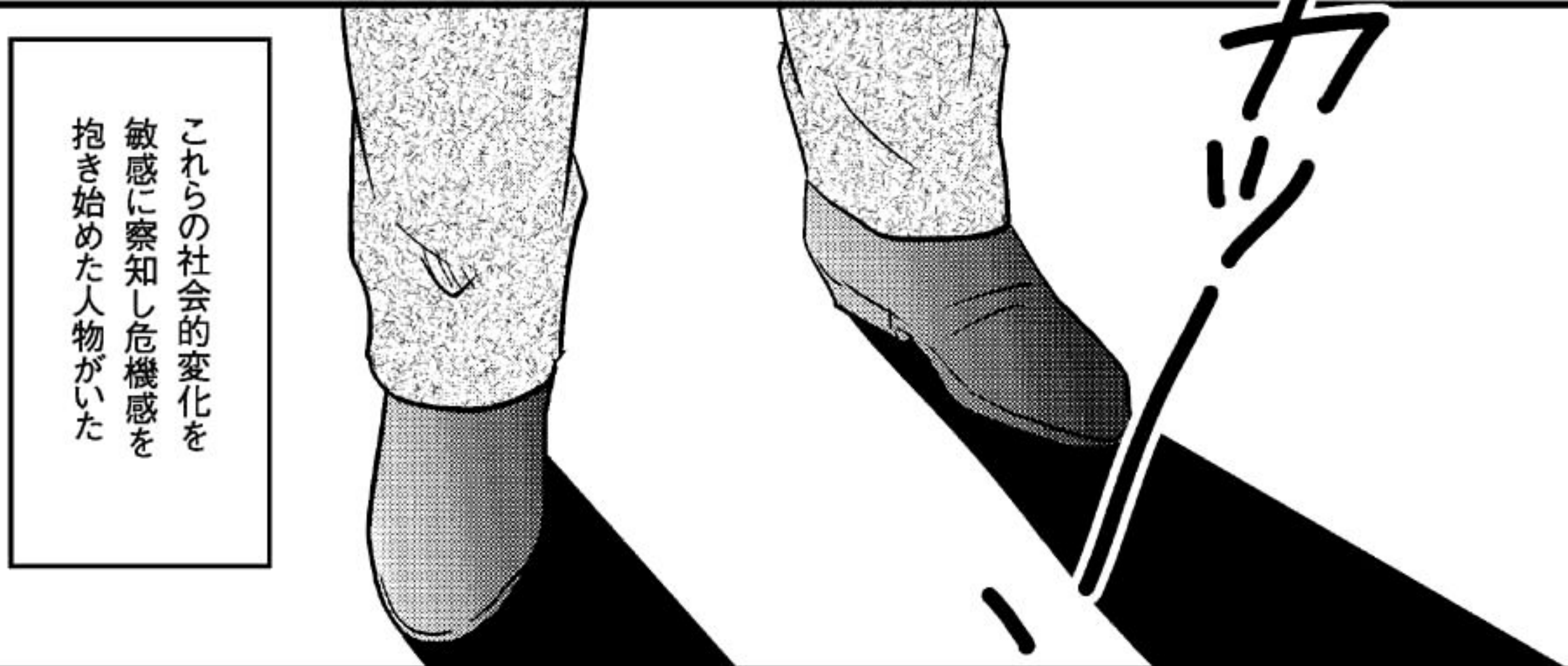
低体温
アトピーの増加



転んでも手が
出ない



外で遊ばず
テレビゲームに
興じる子供達



これらの社会的変化を
敏感に察知し危機感を
抱き始めた人物がいた



友達との活発な外遊びが
減る事によりこれまで
自然と身についてきていた
能力や体力が低下し
子供たちに生じている
様々な異変の大きな原因と
なっているように思えてならない

吉川静雄 ※

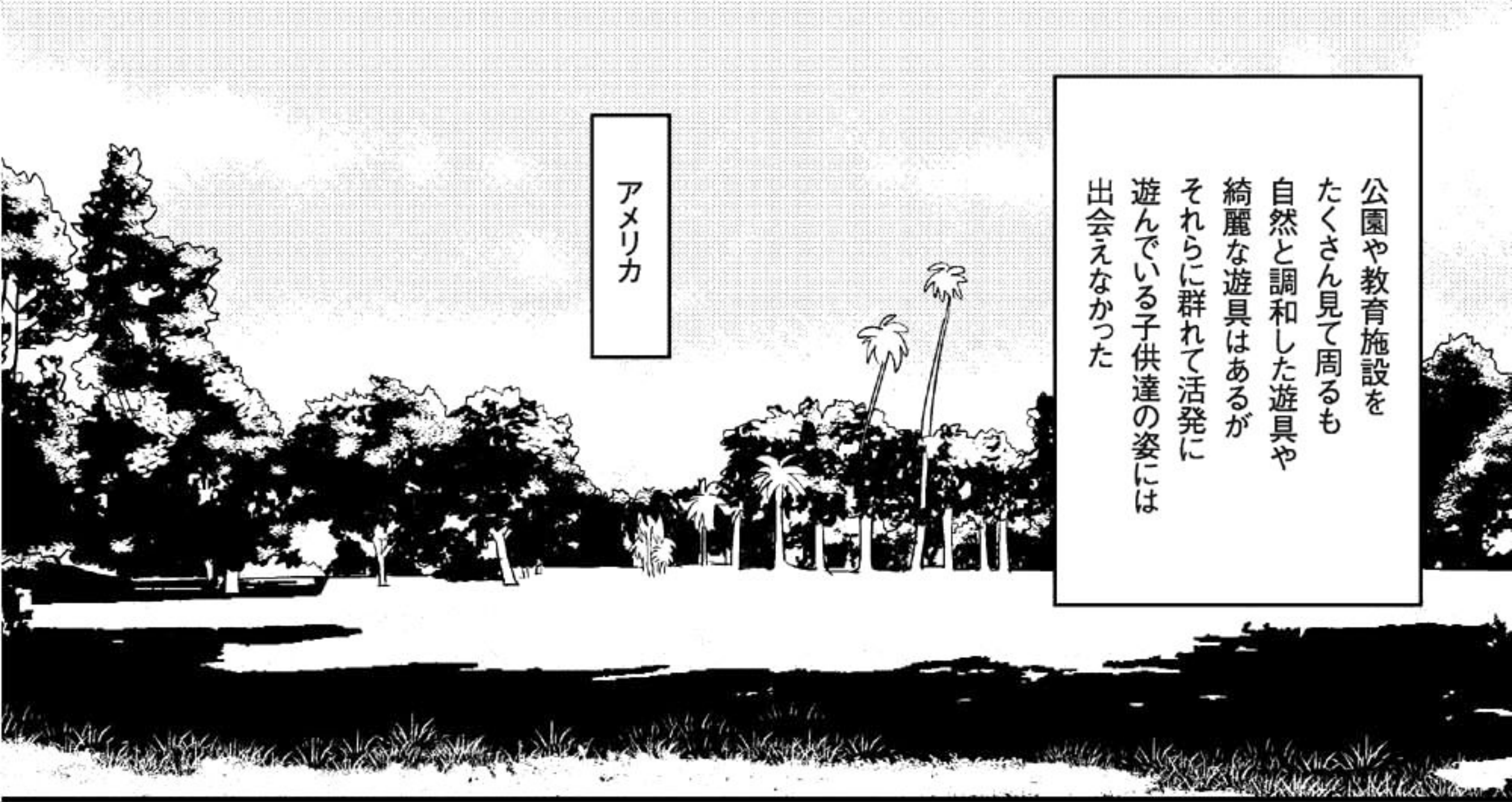


このままでは
日本の将来は
どうなつて
しまうのだろう



外遊びがしたくなる様な
遊具はないものか
欧米の遊具を見てまわろう

※弊社代表
昭和47年 矛盾のない仕事を一生の仕事にしていこうと幼児教育の学研代理店として独立
教育施設へ教材教具、遊具等を販売していた。



公園や教育施設を
たくさん見て周るも
自然と調和した遊具や
綺麗な遊具はあるが
それらに群れて活発に
遊んでいる子供達の姿には
出会えなかった

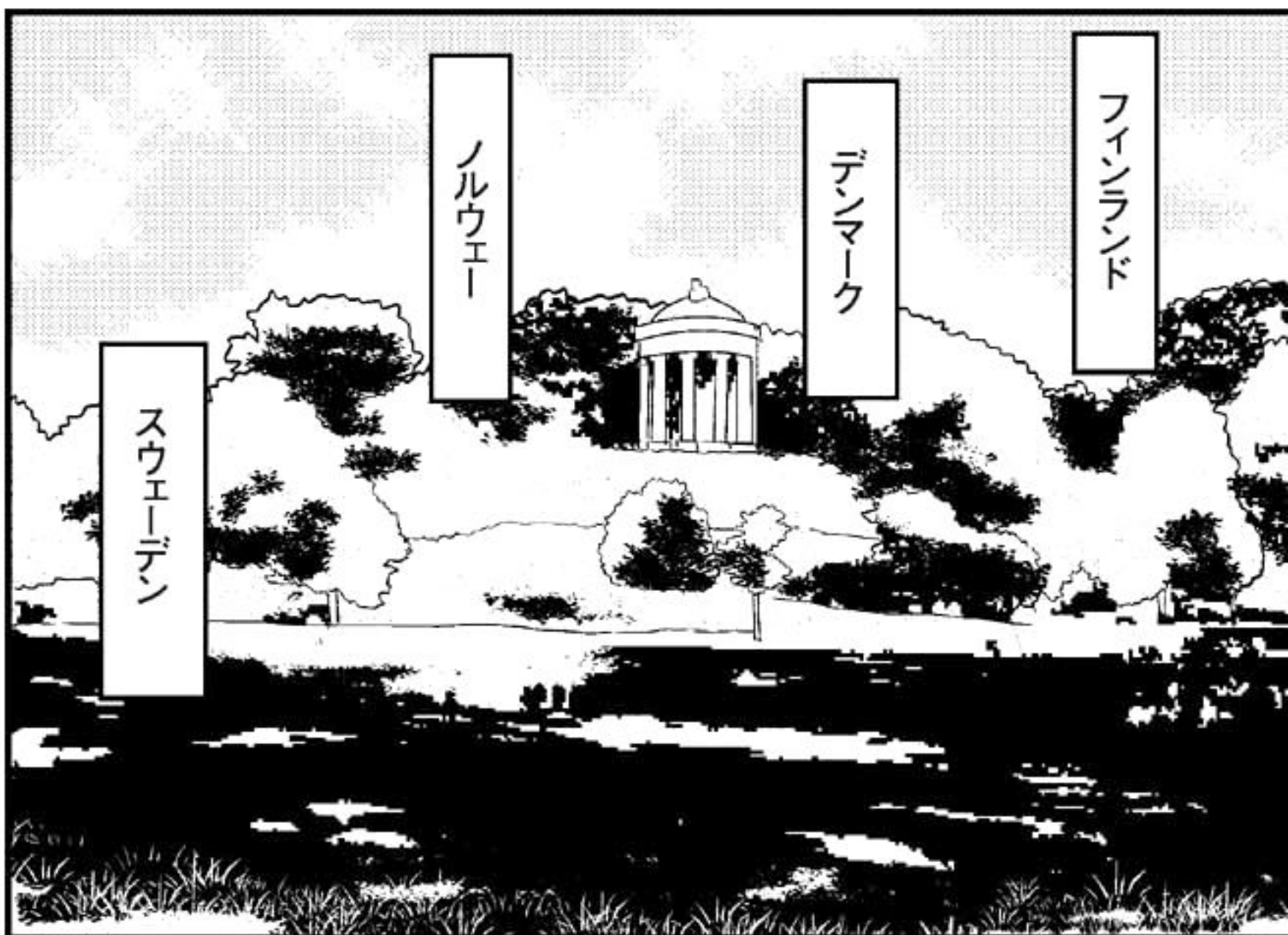
アメリカ



スイス

ドイツ

オーストリア

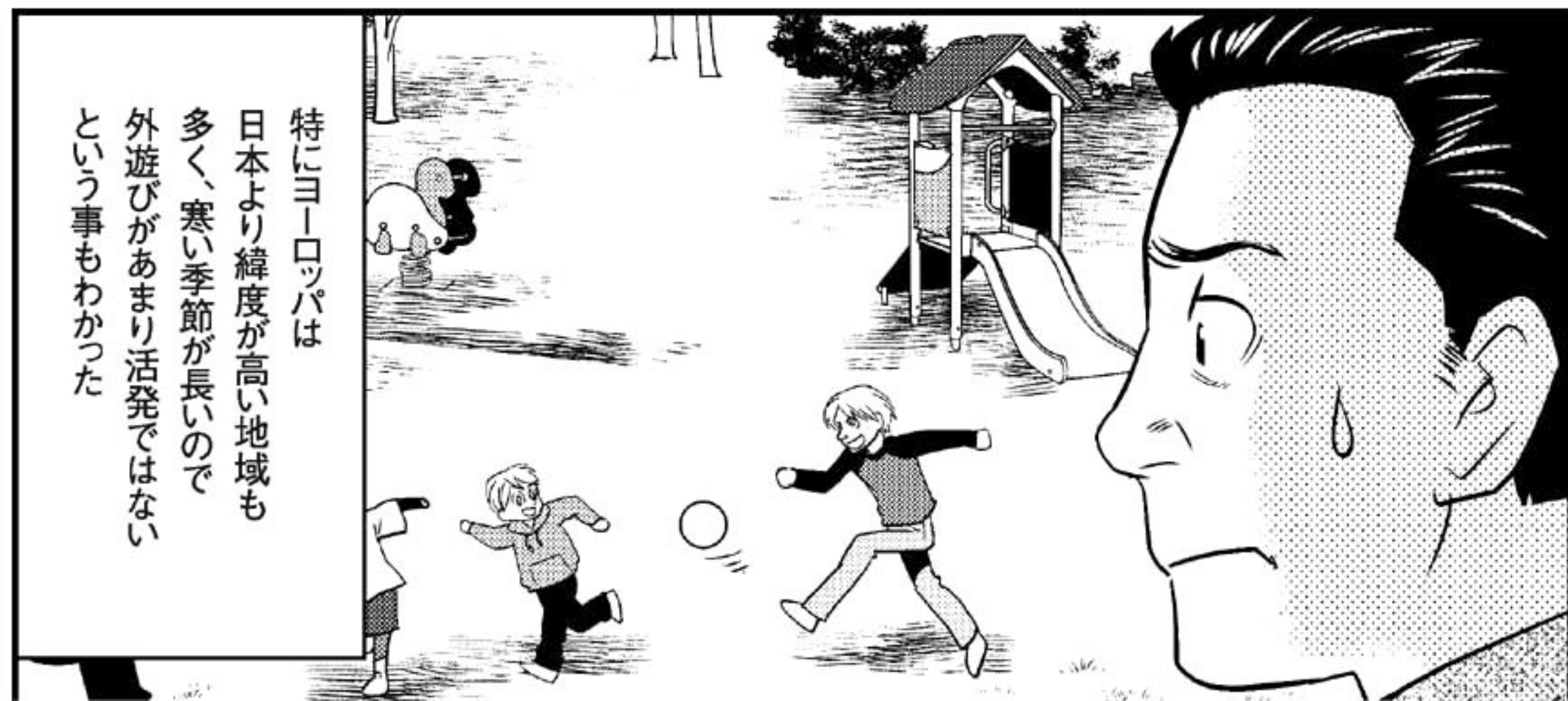


ノルウェー

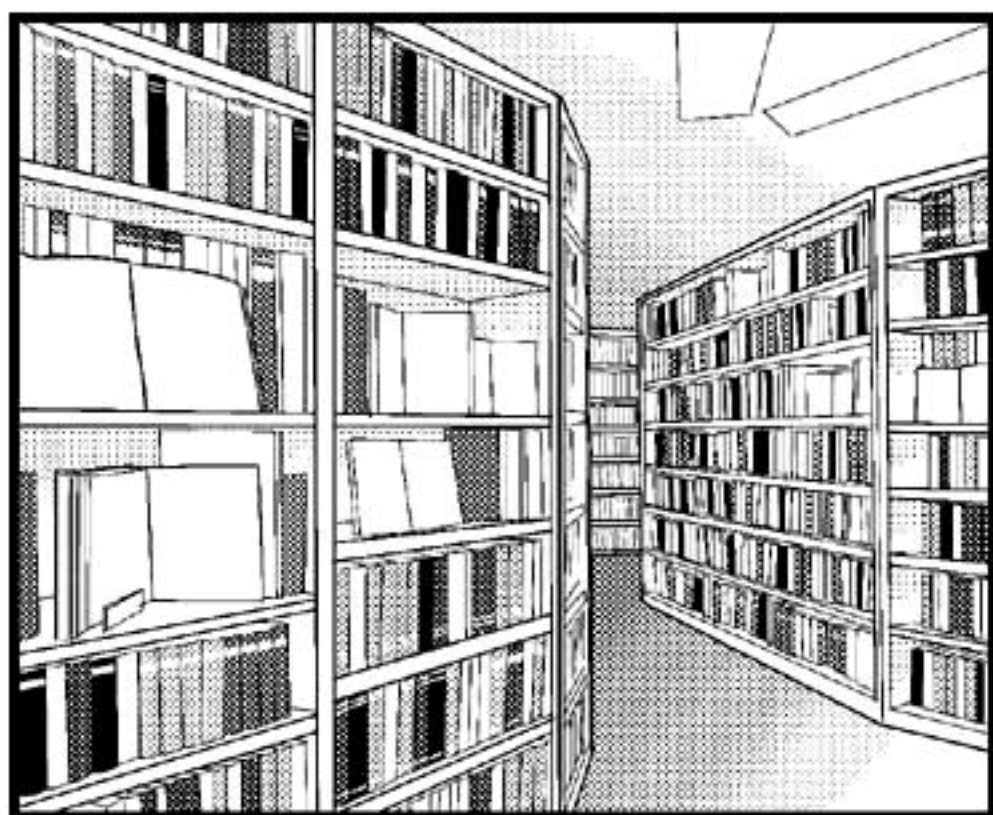
デンマーク

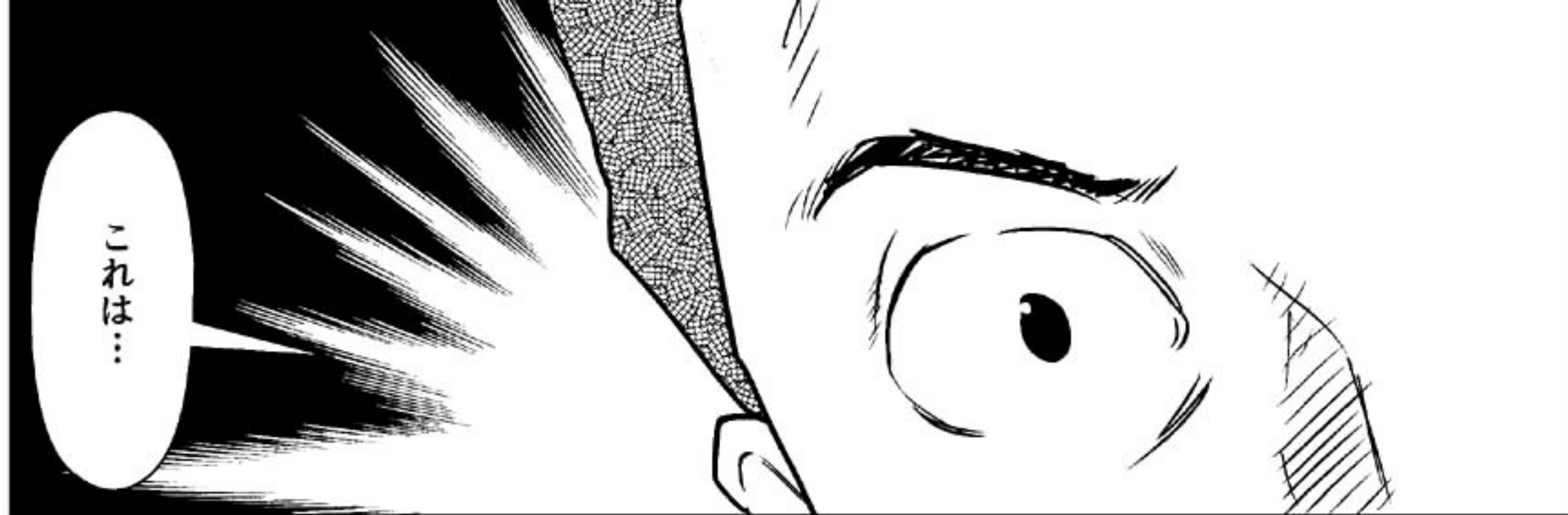
フィンランド

スウェーデン



特にヨーロッパは
日本より緯度が高い地域も
多く、寒い季節が長いので
外遊びがあまり活発ではない
という事もわかった





グルト・ネットー
東京大学教授
1877年(明治10年)来日



『日本ほど子供が
下層社会の
子供でさえ
注意深く
取り扱われている
国は少ない』

イザベラ・バード
女性旅行家・探検家
1878年(明治11年)来日



『私は、日本ほど
自分の子供を
可愛がる人々を
見たことない』

ラザフォード・
オールコック
初代駐日英国公使
1859年(安政6年)来日



『日本はまさしく
ここは子供の楽園だ』

日本は昔から
子供を大切に育て
子供とよく遊ぶ
素晴らしい国だったんだ

答えを欧米に
求めたのが
間違っていた
振り出しに戻って
日本で探してみよう

ある日、数年ぶりに
旧知の中井先生と(※)
大津市役所であたりと出会う
“奇跡の出会い”
思いを語ると互いに共感
京都の元小学校校長先生を
紹介してもらう

安田祐治先生
親子運動遊びと
保護者講演会

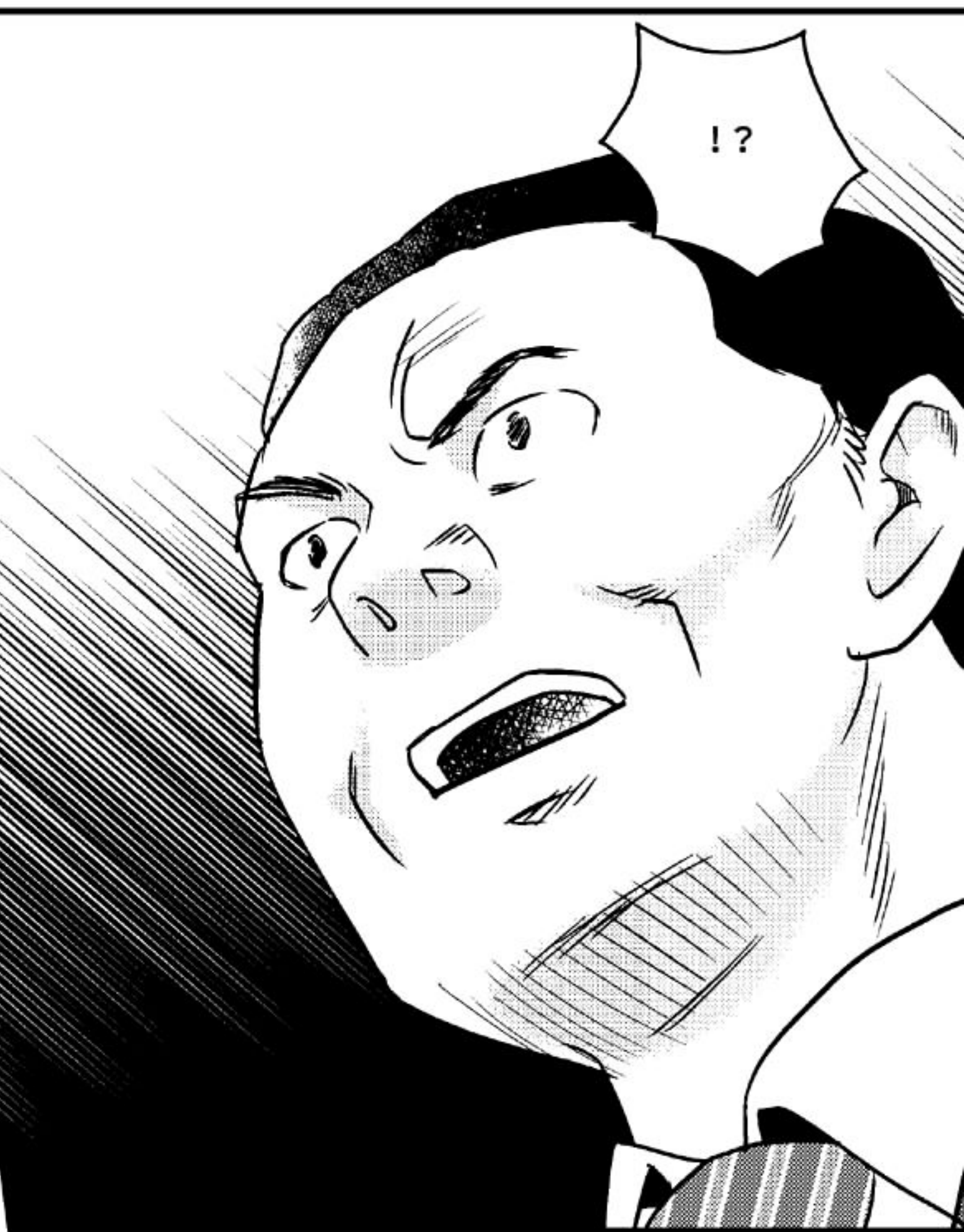
■本教室内にて開催中

※元大津市立幼稚園園長の中井清津子先生

ハハハ

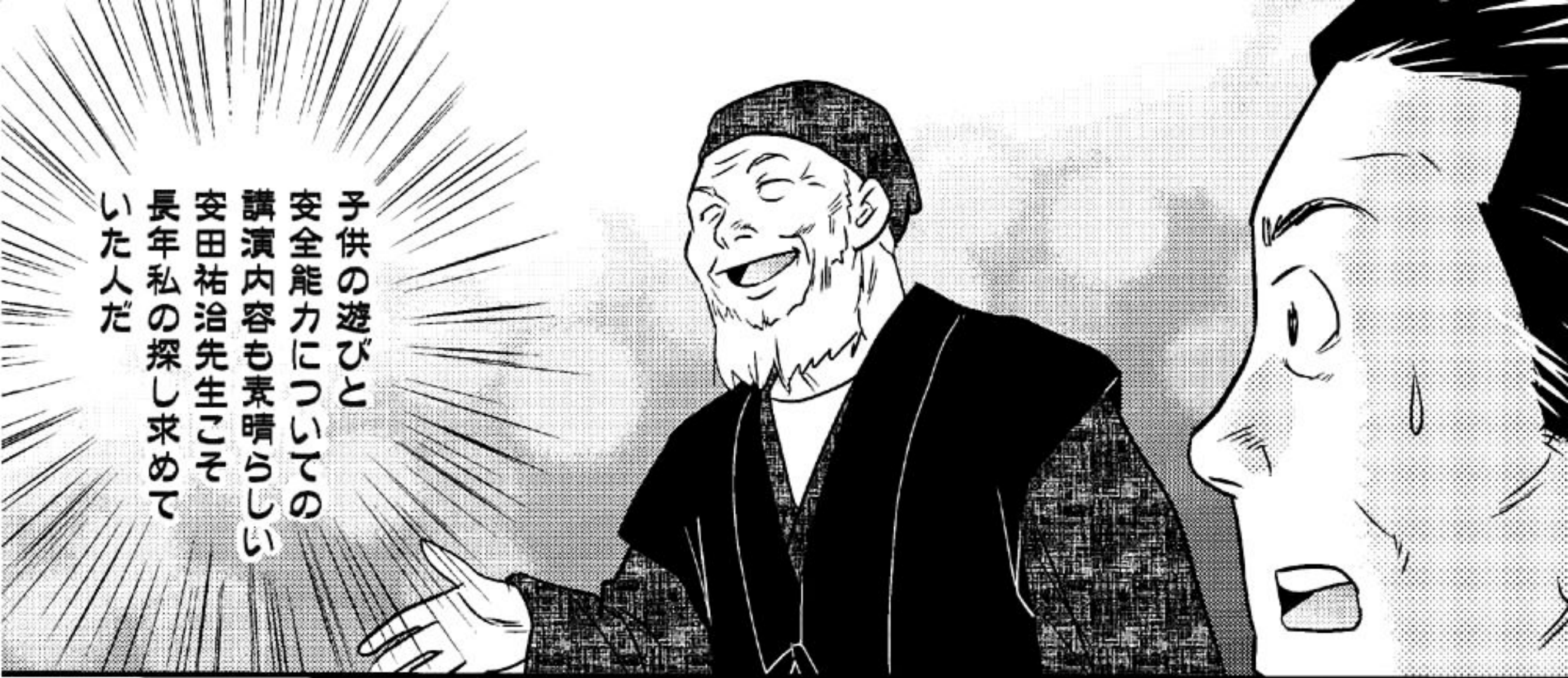
ブクッ...

滋賀県
大津市立
志賀幼稚園

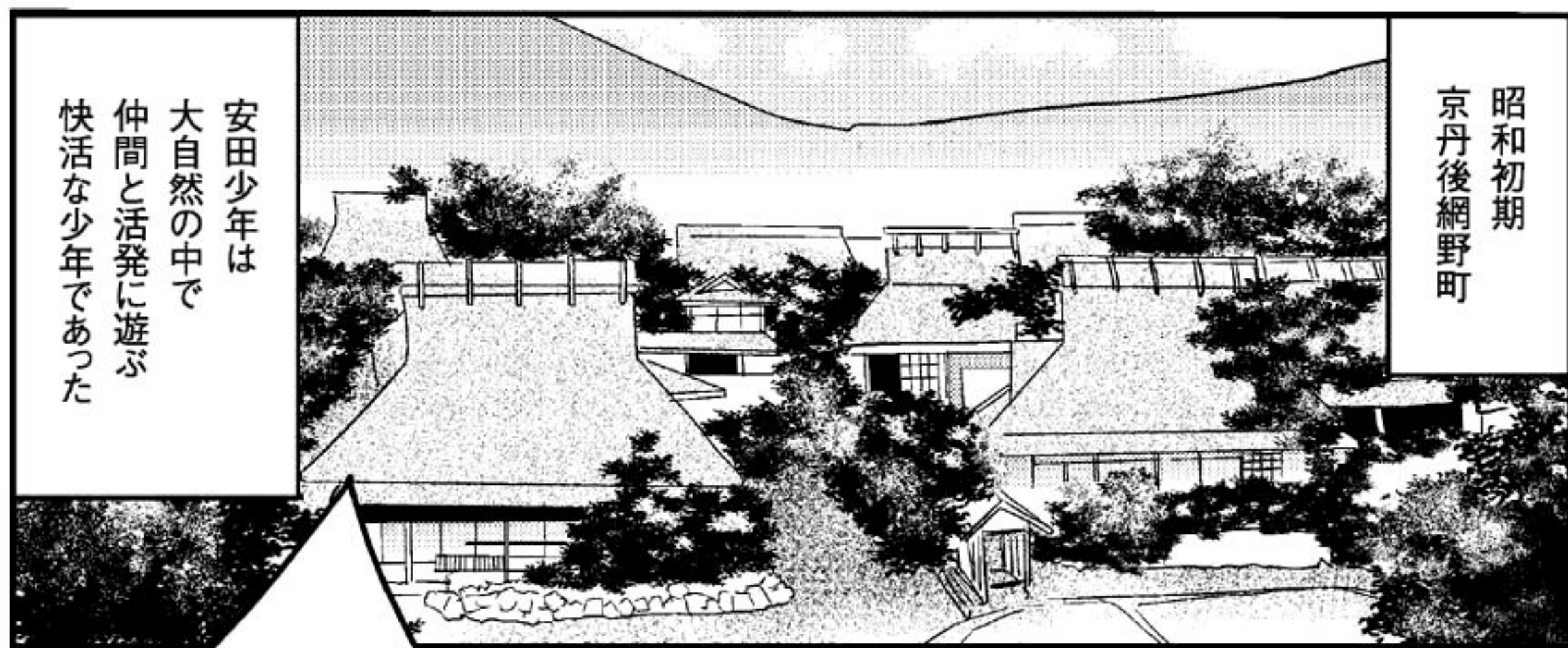
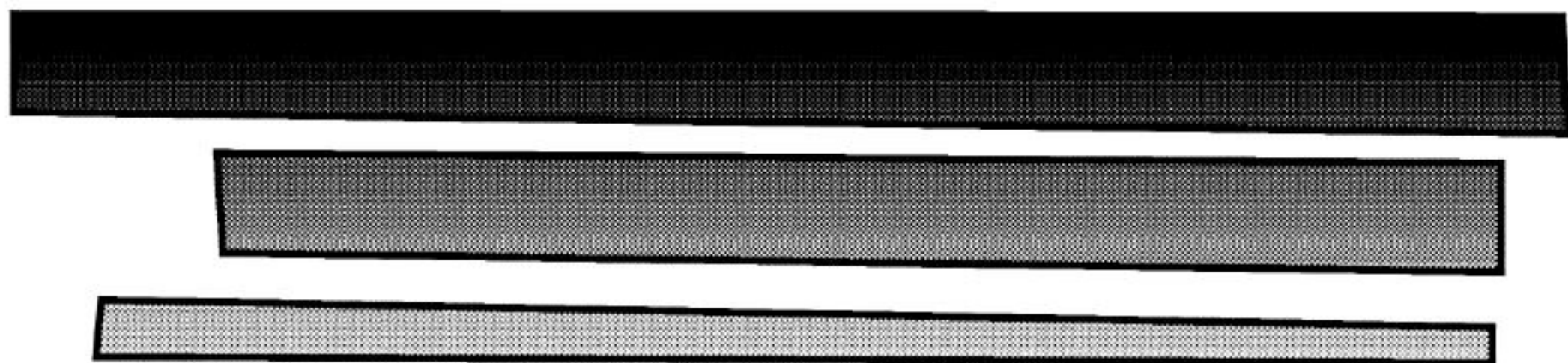








子供の遊びと
安全能力についての
講演内容も素晴らしい
安田祐治先生こそ
長年私の探し求めて
いた人だ



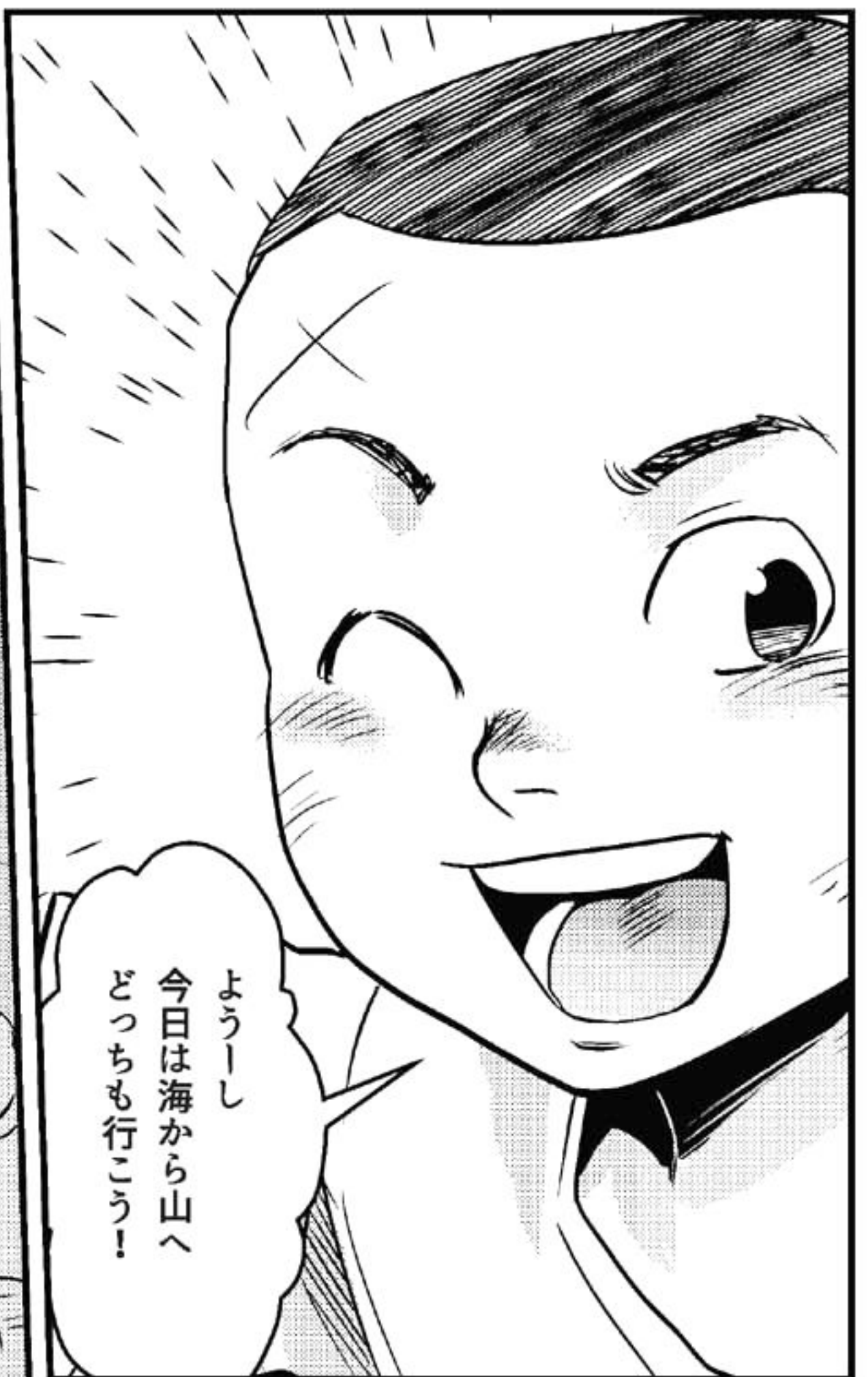
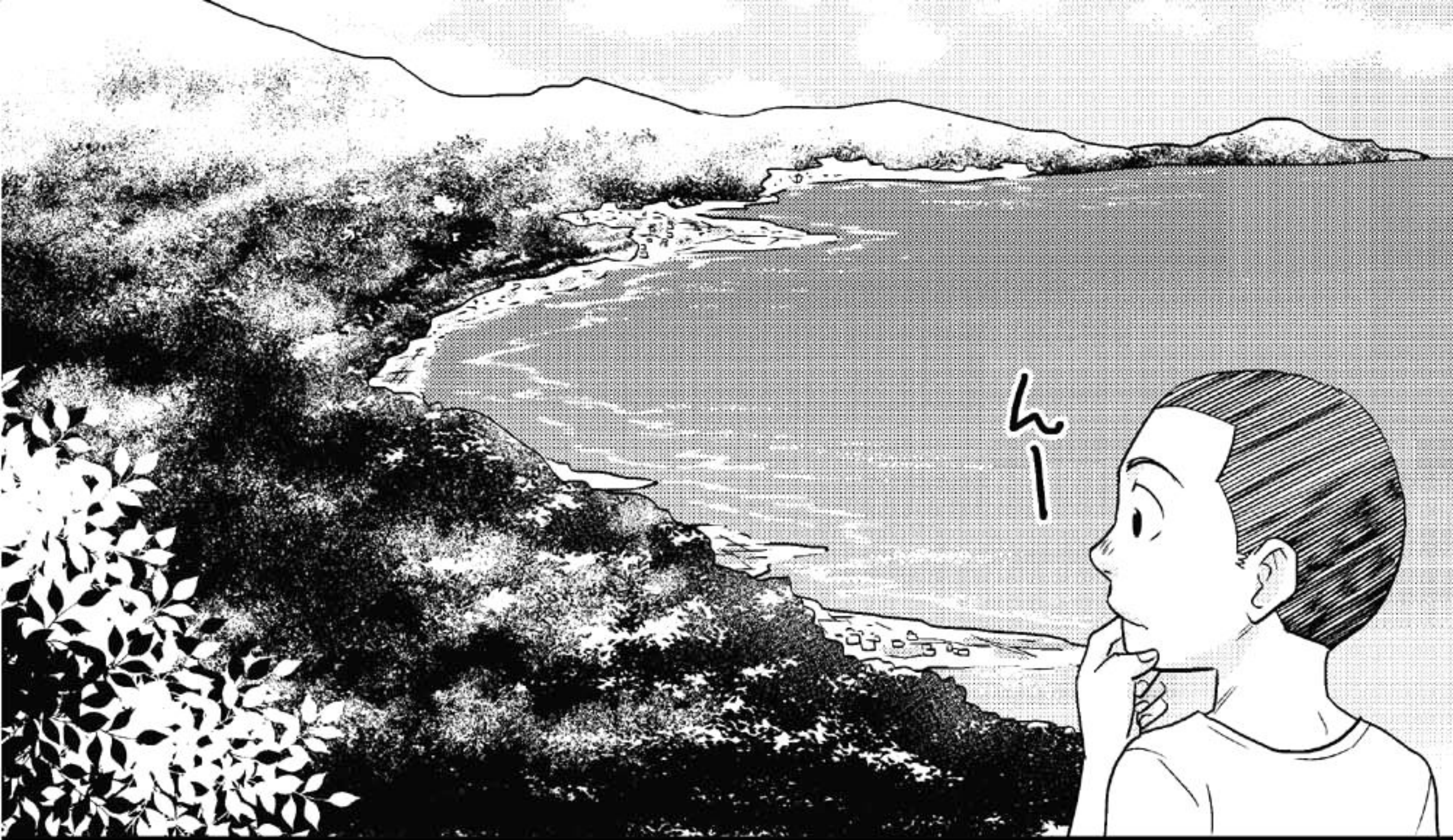
昭和初期
京丹後網野町

安田少年は
大自然の中で
仲間と活発に遊ぶ
快活な少年であった

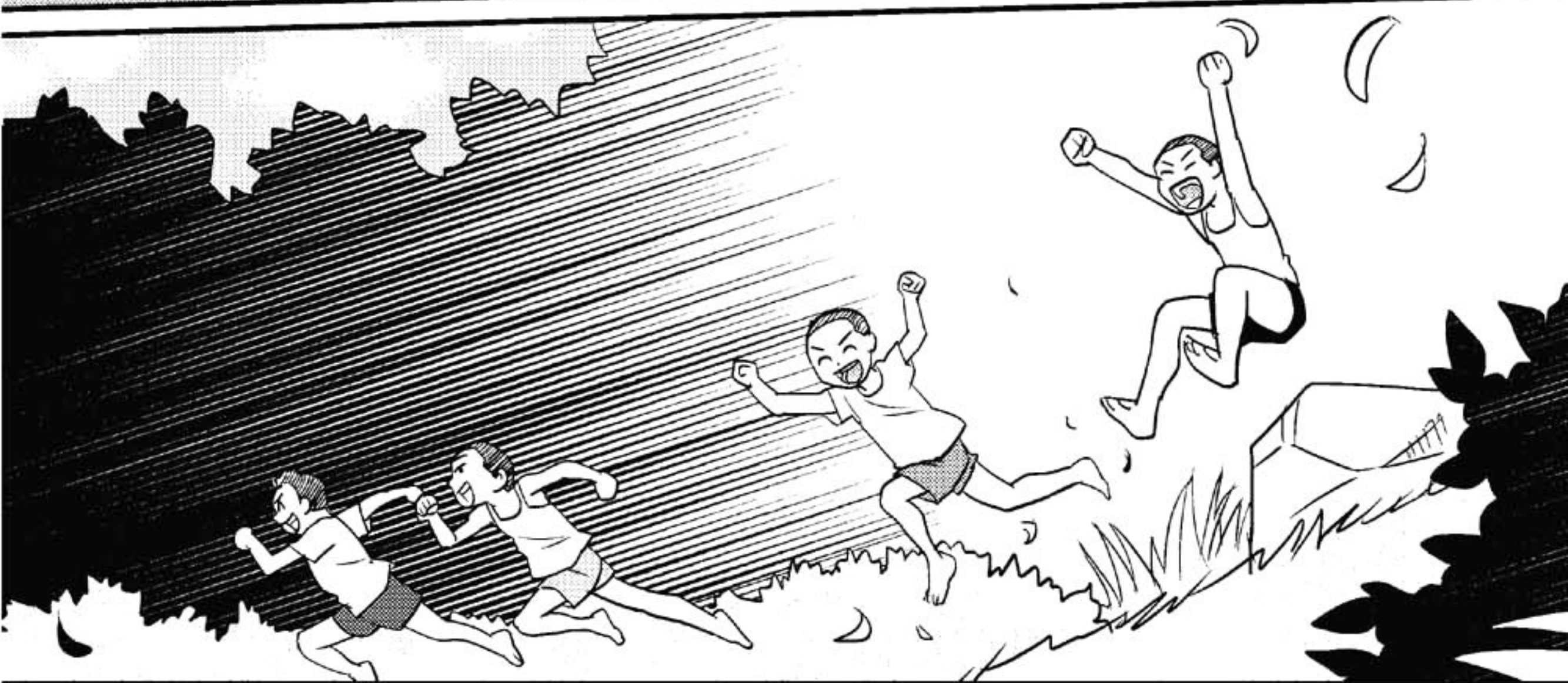
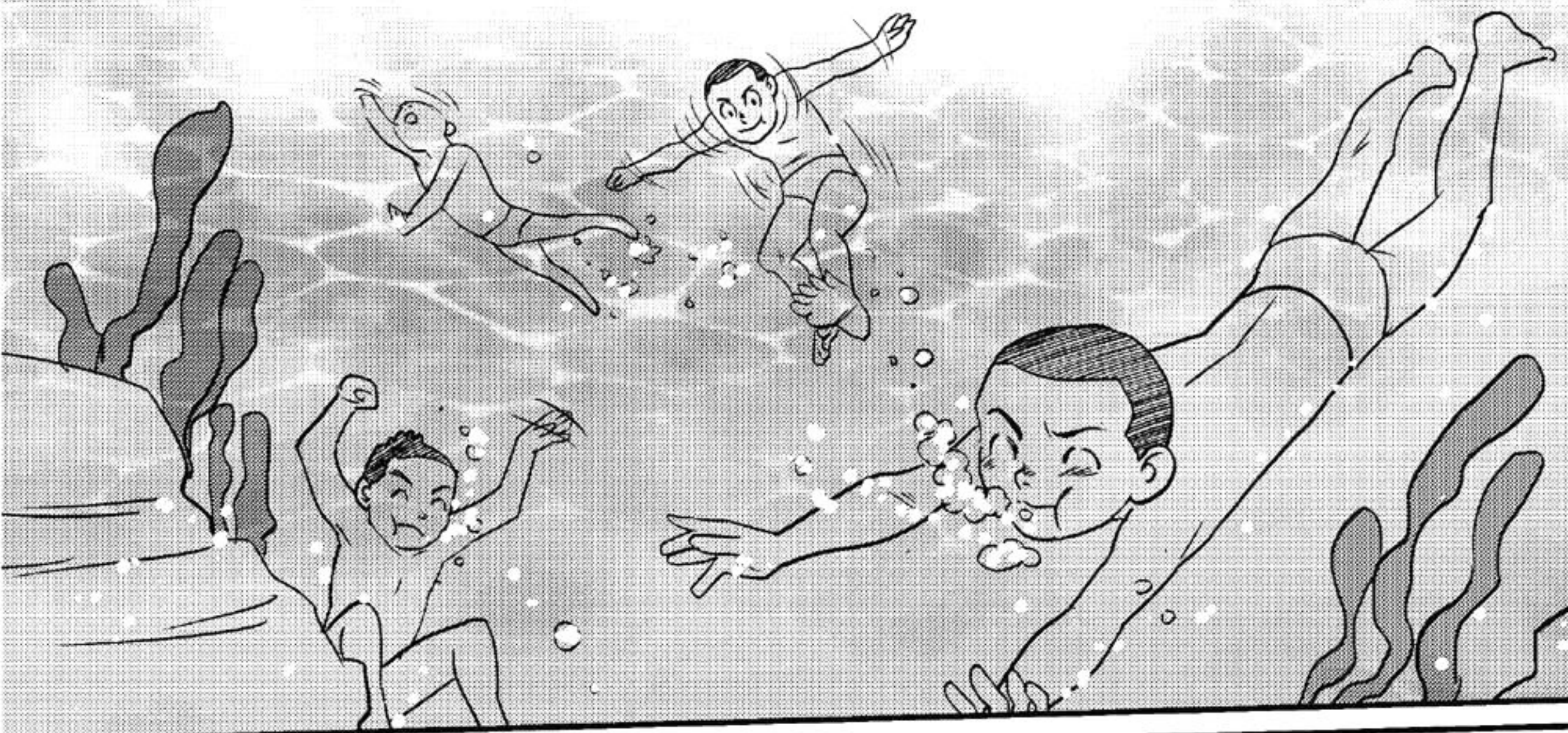


行ってきまーす!!



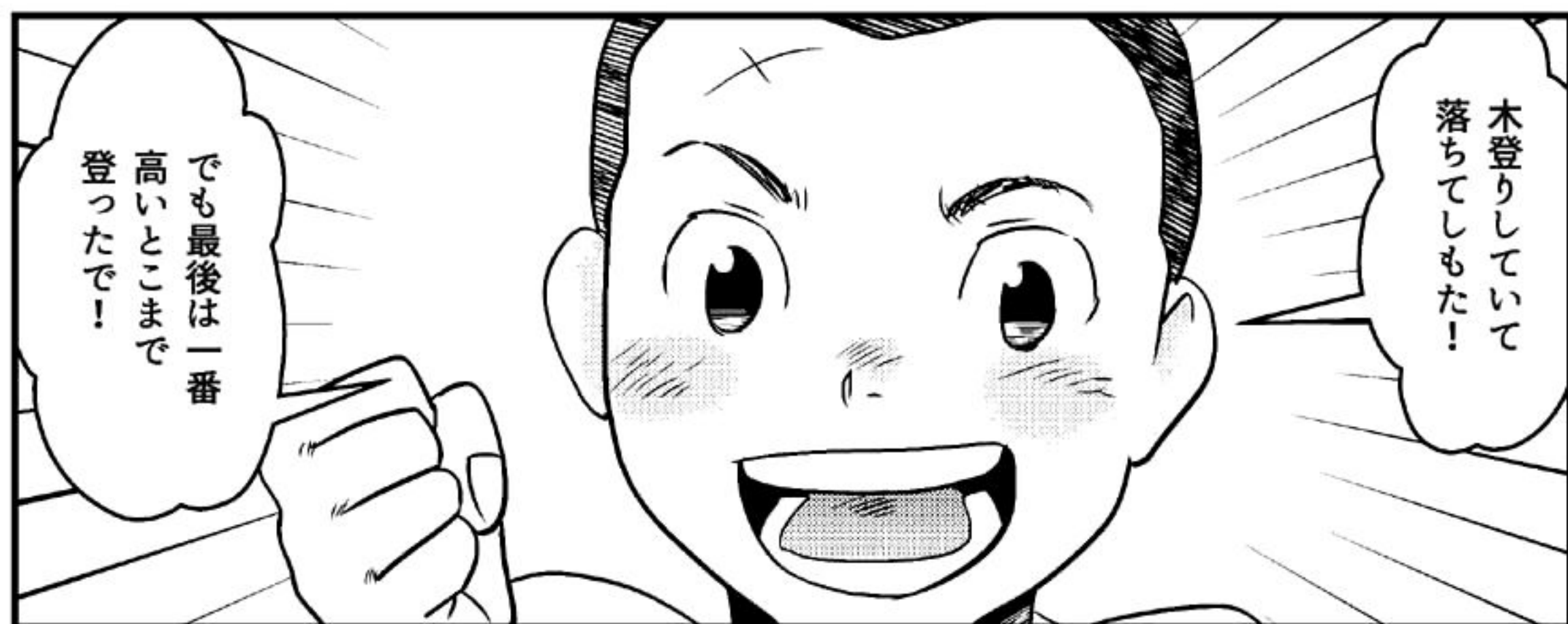


ようーし
今日は海から山へ
どっちも行こう！







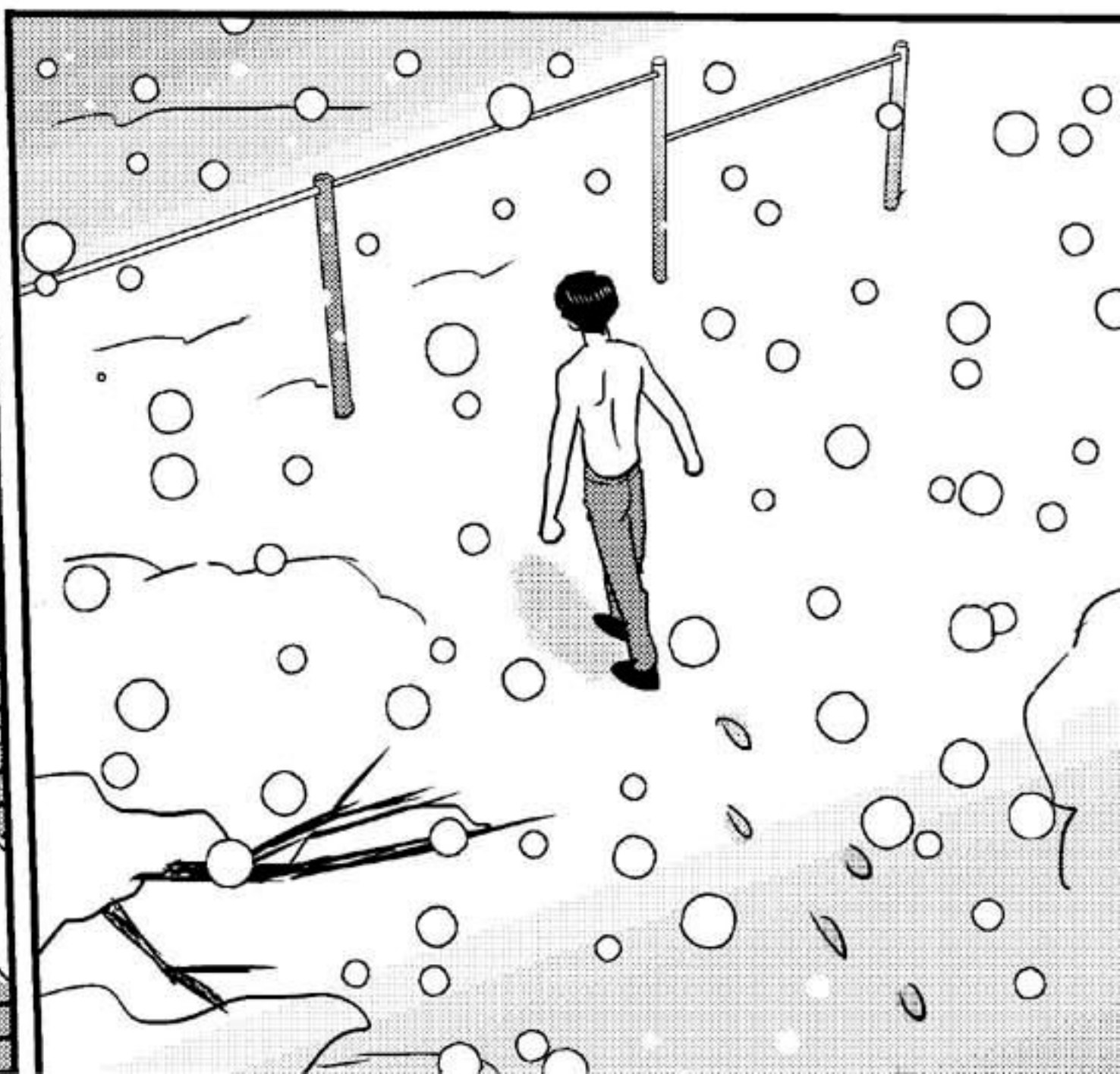
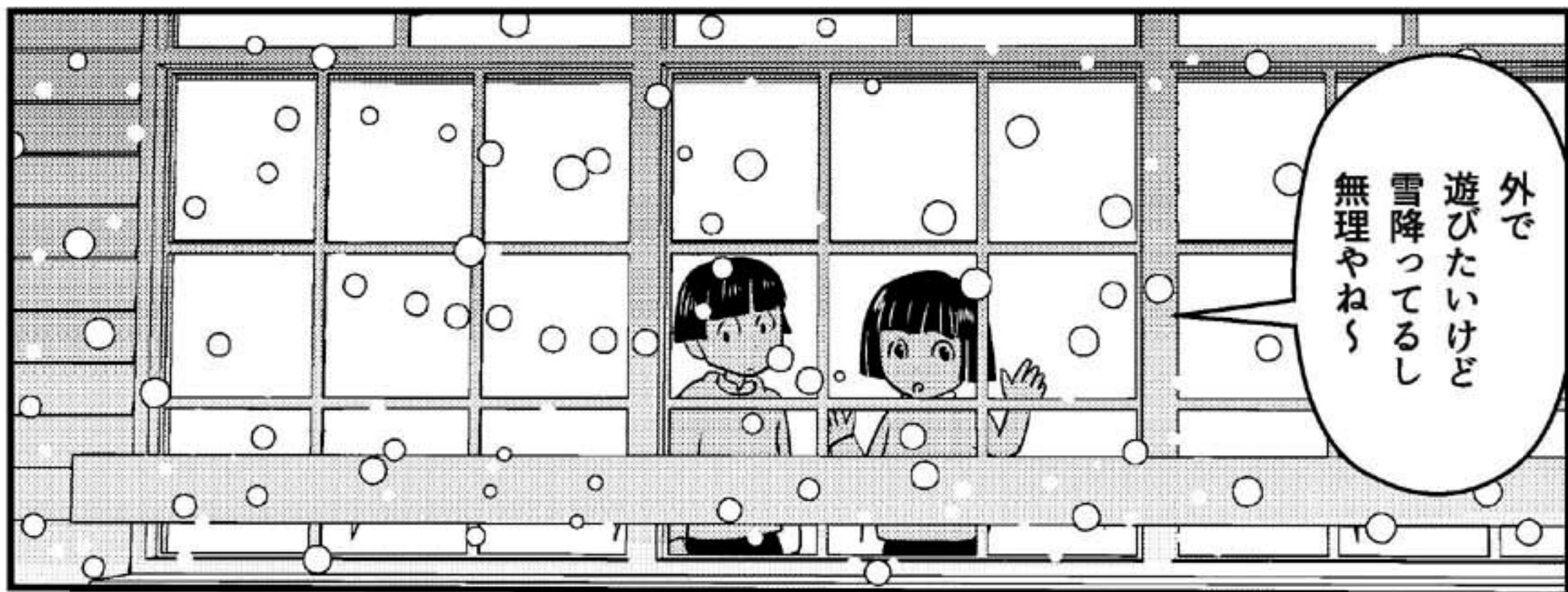
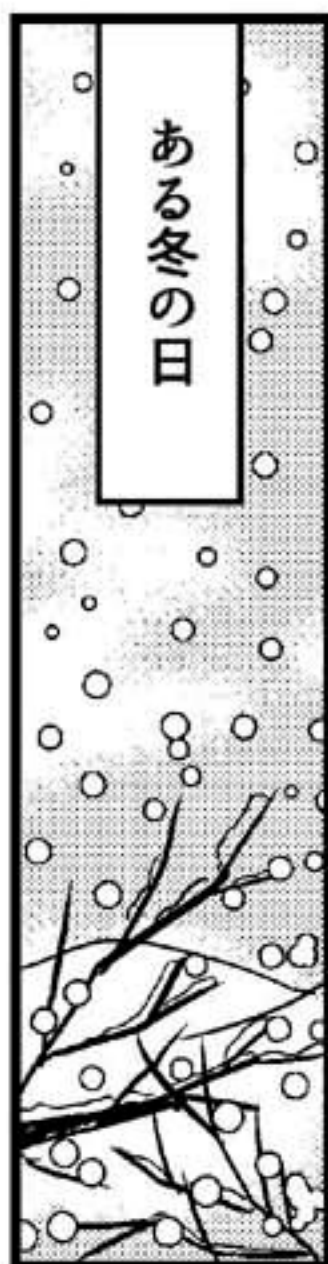


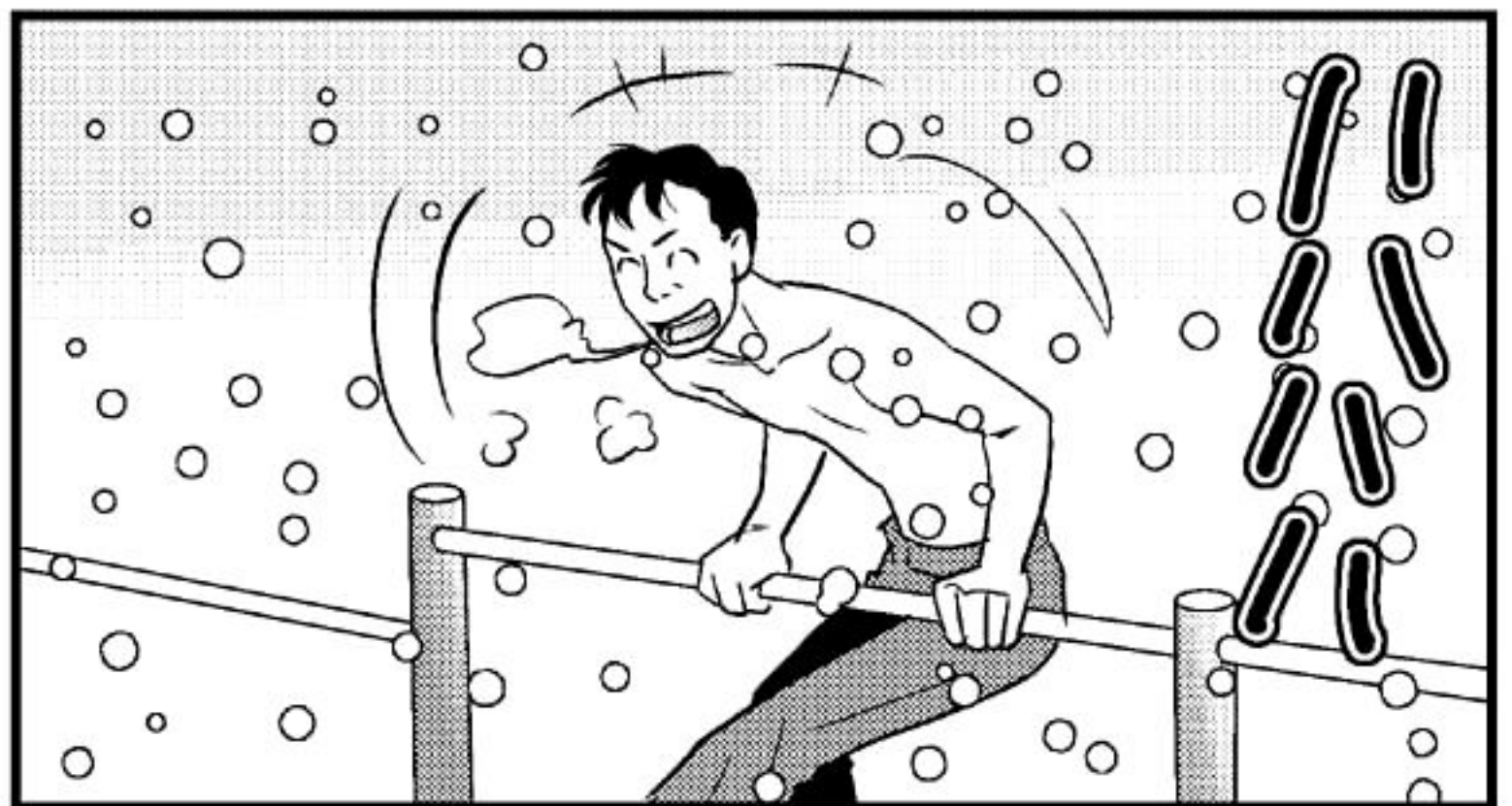




注 体罰について
現代も体罰について様々な議論がなされていますが、安田先生は先に自らの頬を力一杯に張り、子供達の頬を「叩かず叩かれました。先生の顔は悪さをした子供の数分張る為、真っ赤に腫れ上がり子供達は心から反省し先生を慕っていた。このエピソードは、教える子の間で今も語り継がれているものです。







安田先生は現代の教育現場を
憂いながら言われます
『幼少年期に遊びに熱中出来た
子供達は、教師の熱意に応答し
学級崩壊が起るはずはない
のだが』と



これらのエピソードは
『先生こそ子供達にとって魅力的な
大人にならなければならない
魅力的な先生の話なら、子供達は自ら
聞こうとする』という安田先生の
言葉を体現する象徴的な話だろう





昭和40年代から
都市化が進み
子供達が力一杯遊べる
空間が減りはじめた



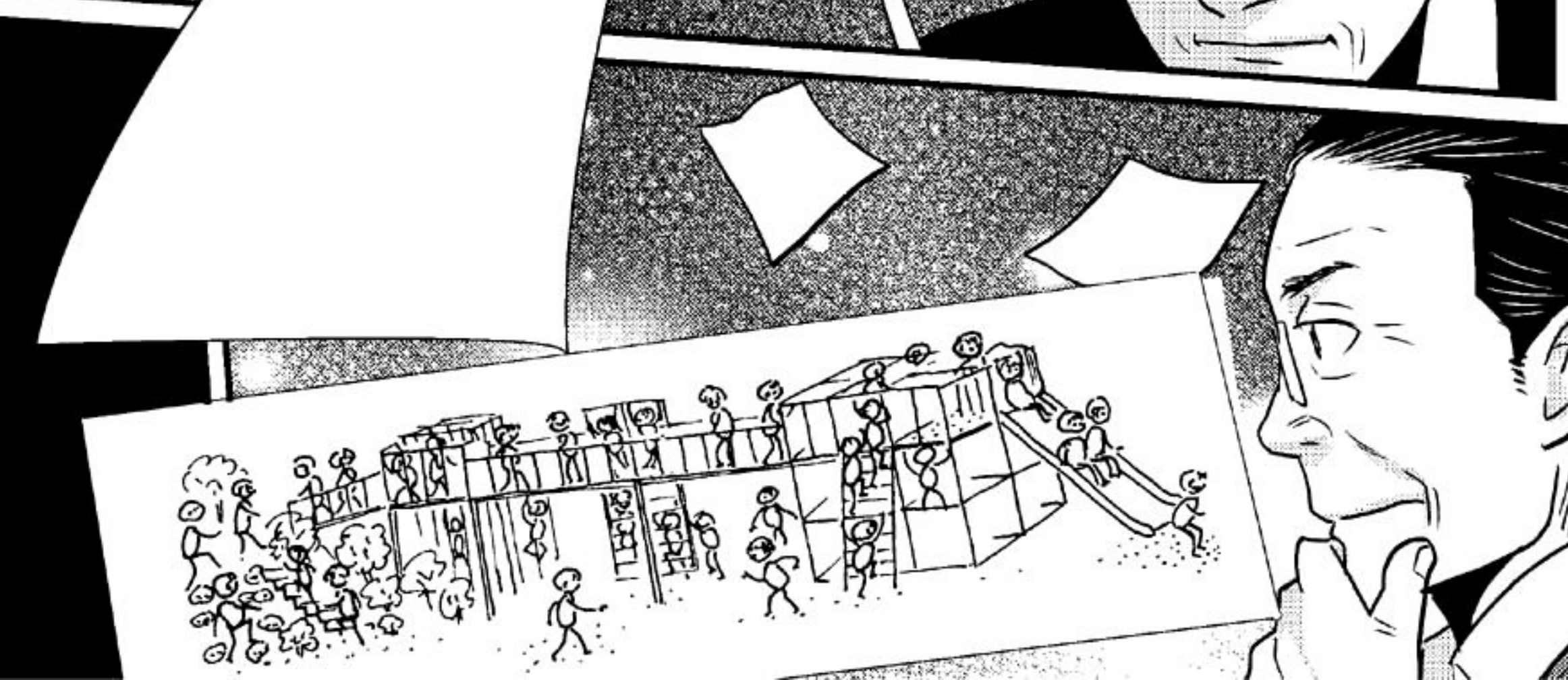
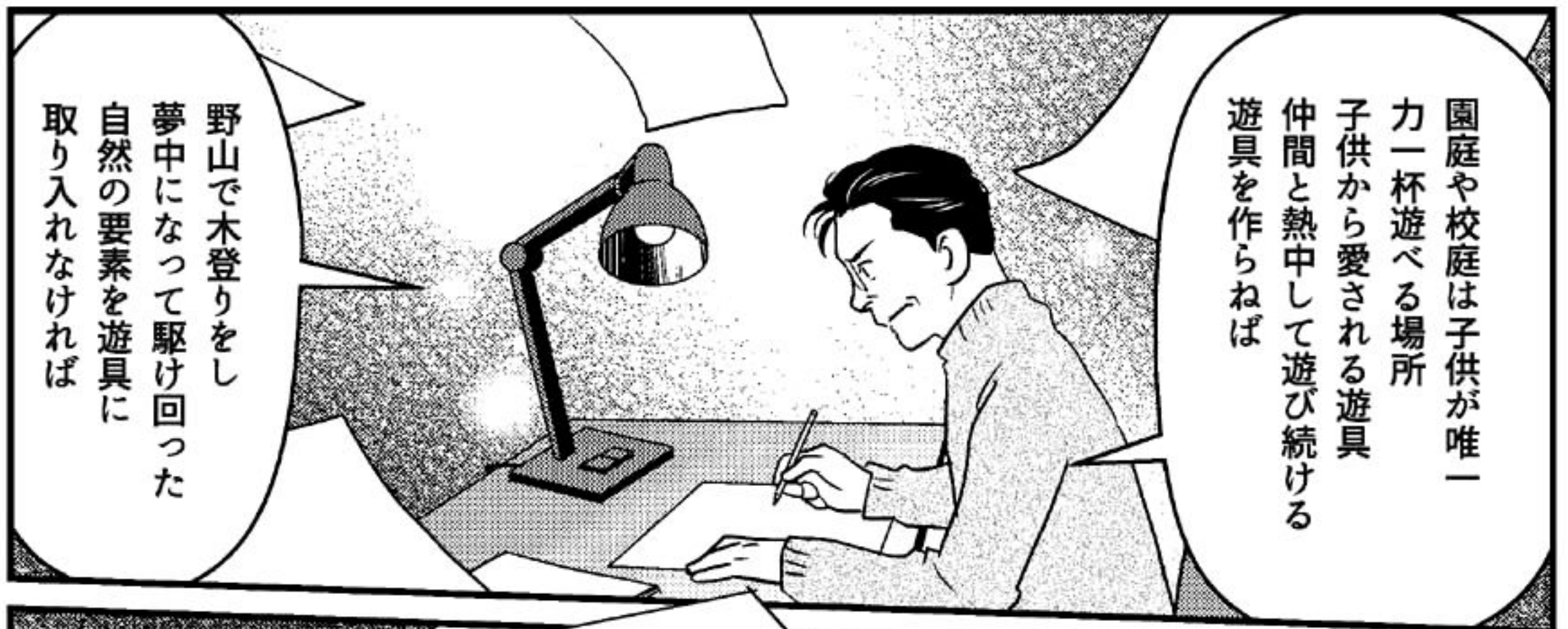
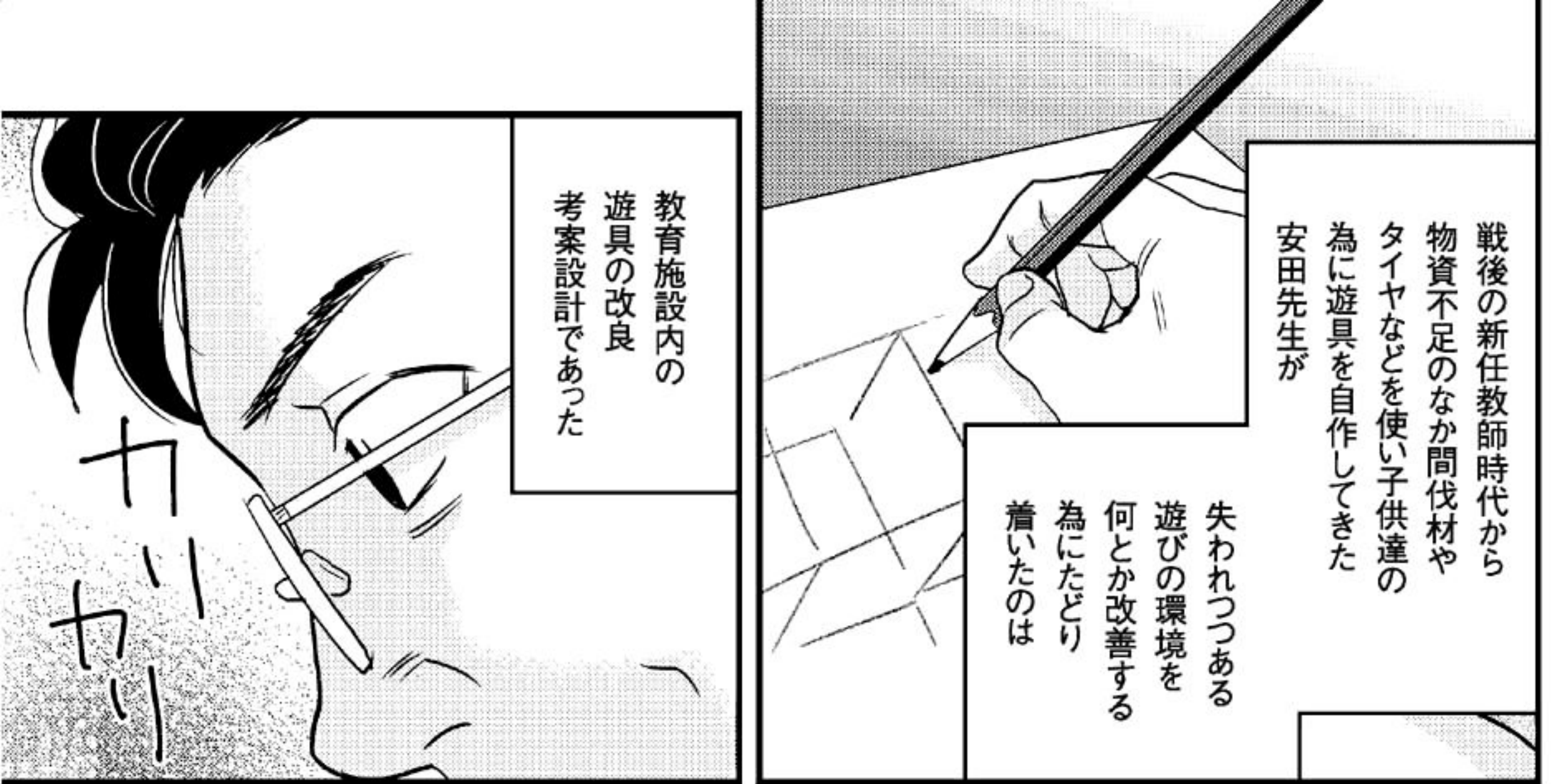
子供がケガ!!
危険な遊具を
撤去!



なんとかせねば

大人の意識も
安全第一主義に
傾きはじめ

誰かが少しでも怪我をすれば
真の原因を追求することなく
遊具は撤去される事が増え
遊びの規制も多くなってきた

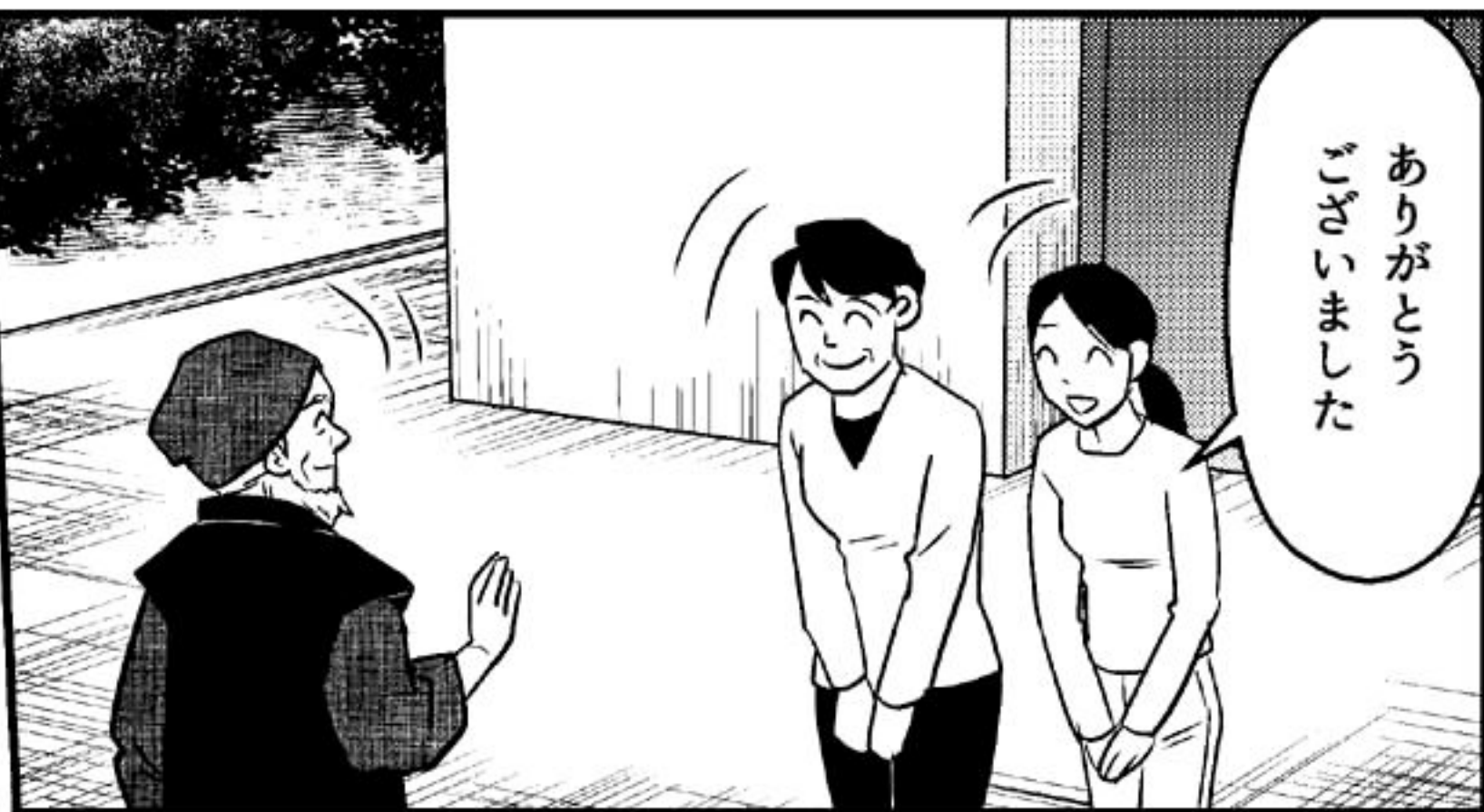


子供と遊

遊具の評判は
口コミで広がり
地元京都を中心に
全国から依頼を
受けて考案した
遊具の設計図は
600枚を超え

各地の園長校長から
その遊具で子供達が
夢中に遊ぶ姿を見て
遊具設計への感謝状が
多く寄せられた
※巻末に紹介

また長年の教育現場での
実践研究が広く評価され
大学で教鞭もとり
各地の講演会、学会発表で
教育に携わる人材育成にも
尽力されていた



ありがとう
ございました





先生
私は思うんです

今、子供達が
危ないと

十数年にわたる子供達が
楽しく熱中して遊ぶ
幻の遊具探しの旅を
熱く語る吉川

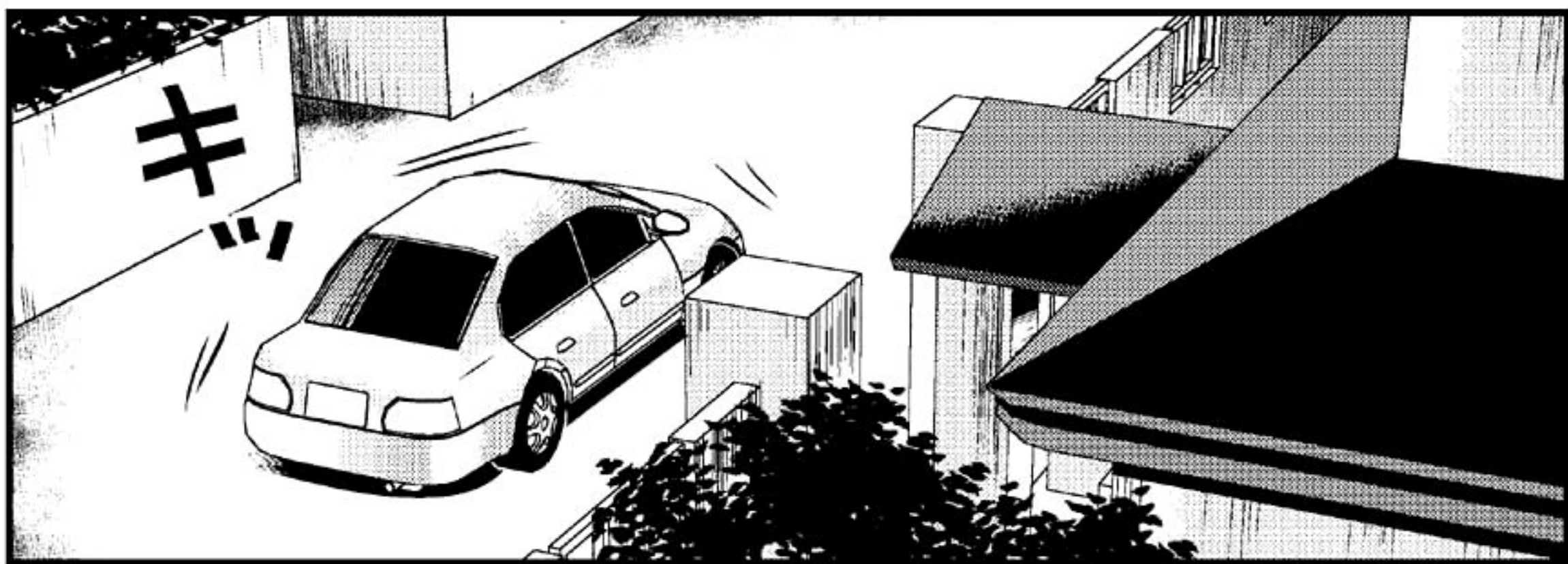
マスコミなどでも
騒がれ始めて
いますように

転んでも手が出ない
アトピー・アレルギーの増加
低体温、背筋力の低下
土踏まずの形成の遅延等…

かゆい

さむい

その原因は
子供達の外遊びの
減少にあるのではないかと
思っているのです



安田先生「自宅中庭の
「体育遊び研究所」にて

これは僕が今まで
50年かけて研究した
子供の遊びの指導法と
考案した遊具の資料じゃ

今までの成果が
ここに凝縮されてる
わけですね

遊具の考案設計
のみならず
子供の遊ぶ姿から
指導者の関わりまで
具体的かつ詳細に
書かれている

〔安田先生の言葉〕

三輪車に乗れても自慢はしないが
自転車、一輪車に乗れたら自慢し
達成感を味わえる

同様に

遊具もハザードはダメだが
リスクのない安全第二の遊具は
面白くないので子供はすぐに
遊ばなくなる

欧米や日本の教育施設の遊具は
競技用遊具や公園の遊具が
そのまま設置されていて
教育用の目的をもって活用
できる遊具は少ない

※昭和45年5月

日本体育施設協会主催

文部省後援

第22回全国体育施設研究協議会に於いて

「学校及び公園の体育施設・遊具について」

京都市教育委員会指導主事 安田祐治



今まで私が販売し
見てきたデザイン重視の
遊具や環境や人に優しいと
いわれる木製遊具

キャラクターの
かわいい遊具は
公園用遊具であり
教育的要素が
欠けていたのか！

年齢や能力差のある
子供達が群れて
楽しく熱中して
遊び続けられる遊具
…この視点こそが
必要だったのだ！！

指導法については
熱心な仲間や
先生達が各地で
実践してくれている

しかし
考案設計してきた
遊具は別や

長年かけて
子供達の発育に
つながる遊びを
具現化するために

ヒトの進化の過程と
大脳中枢神経の発達を研究し
樹上遊びの大切さに行きつき
考案した教育用遊具なのだ

わし
私が死んだら
これらの設計図は

一緒に燃やされて
しまうやろな…

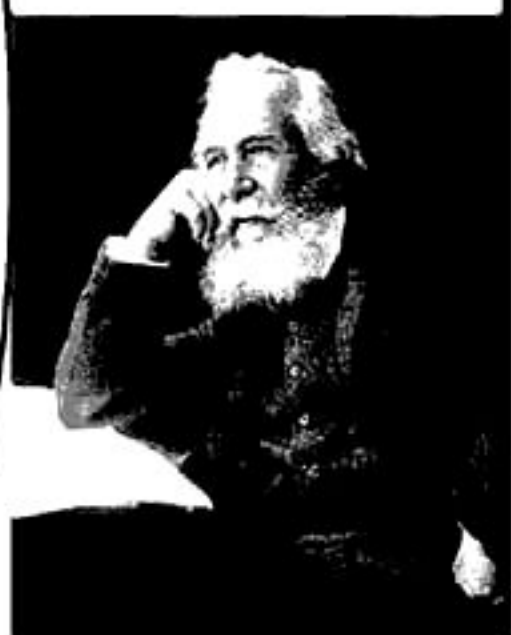
※当時、安田先生の遊具は商品化されておらず、相談に応じて現地に赴き、無償で設計し、同郷で親しかった近くの鉄工所の協力を頼みほとんど原価に近い値段で提供されていました。

吉川君！
私は今でも大学で
教えているのだが

本当は職人
「遊びのプロ」なんや
子供の遊びに関しては
誰にも負けへん

君なら考案した遊具を
理解してくれるだろうから
じっくり聞いてくれ

「個体発生は
系統発生を繰り返す
——ヘッケル——」



という説があるんだが
生まれてからも動きの
獲得の過程で
もう一度系統発生を
繰り返すということなんや

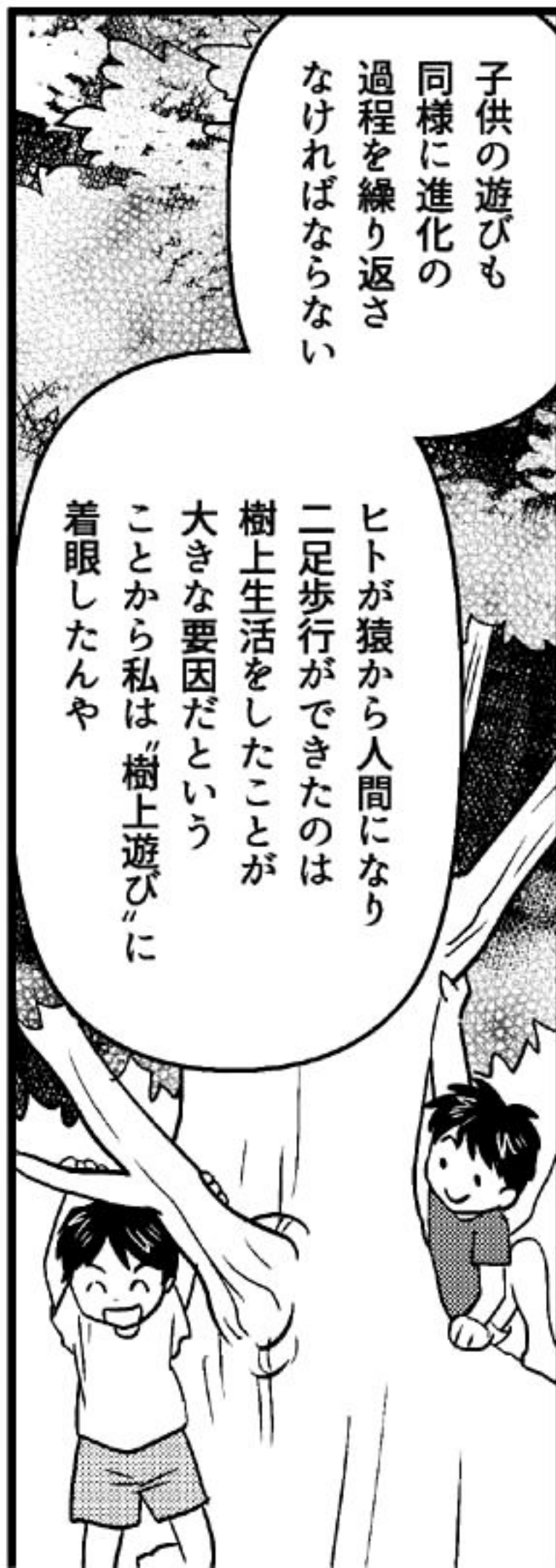
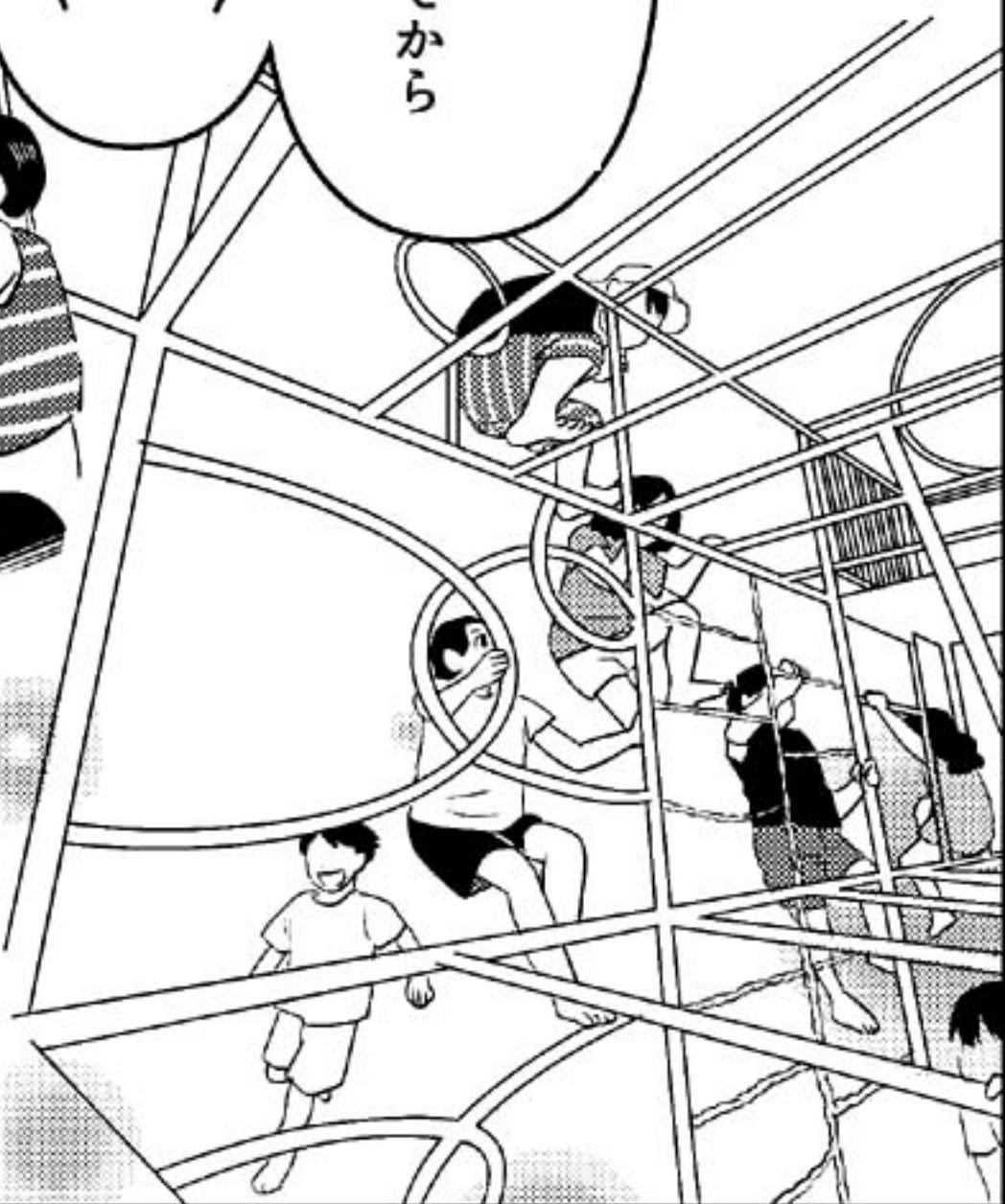
子供の遊びも
同様に進化の
過程を繰り返さ
なければならぬ

ヒトが猿から人間になり
二足歩行ができたのは
樹上生活をしたことが
大きな要因だという
ことから私は「樹上遊び」に
着眼したんや

京都大学の
河合雅雄さんが
言っていた

「学校の「校」の字は
「木」が「交わる」と書く
学校から森が無くなってから
イジメが増えた」んだと
その森が少なくなった今
森の代わりになるのが
私の考案した遊具なんや

子供の遊びにはまず樹上遊び
雲梯・鉄棒・ブランコ・吊り輪・
ジャングルラミング・登降棒……
が必要で、その後、原野遊び・
館遊びへと発展していくんや



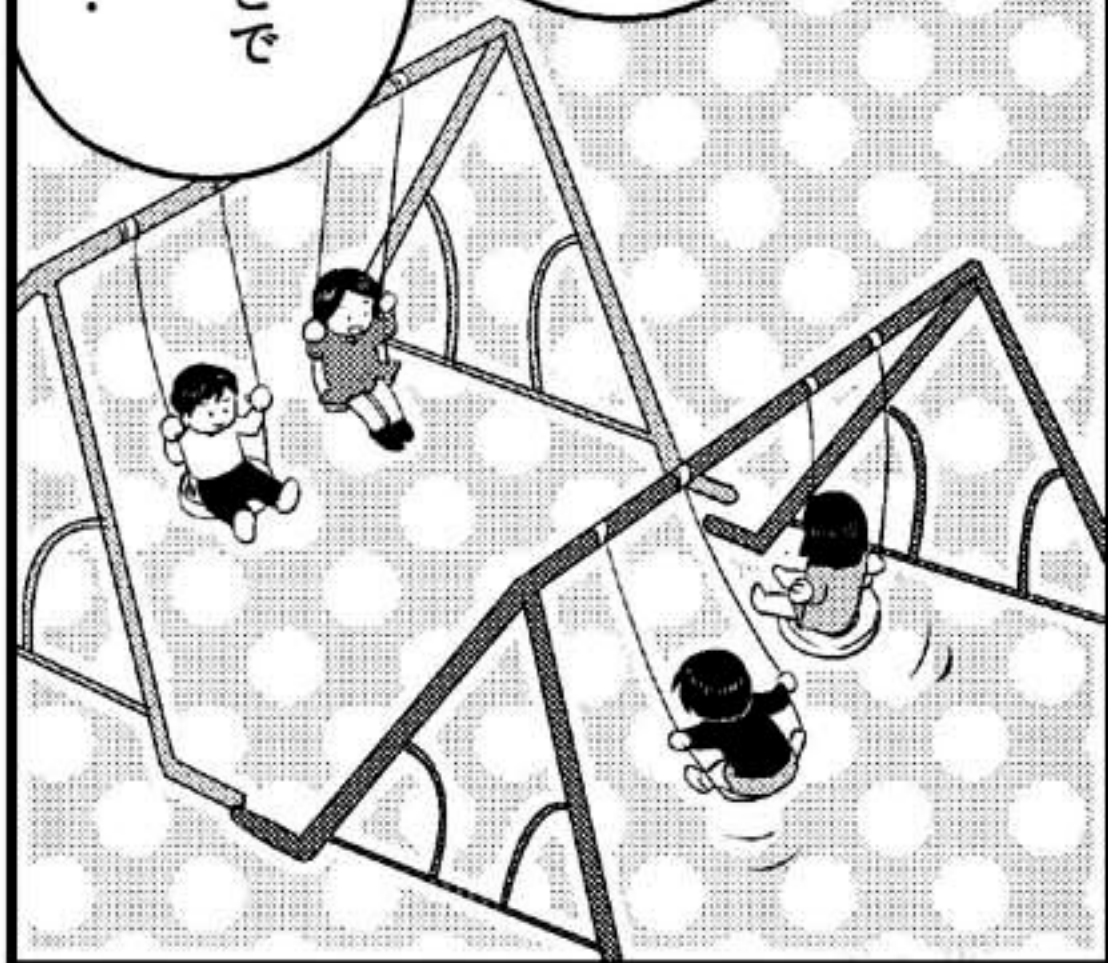
まず全ての
遊具は
移動式に

そうすることで
季節や行事に合わせて
園庭を有効に使える



先生の目の届く
ところに置けば
できたらすぐに
褒めてあげられる

相對して
配置することで
子供同士が
刺激しあう...



スゴイ
スゴイ!

枠間は広く

例えば
雲梯なら幅は
既存の倍に

先生!
見てー!
見てー!

そうすることで
追い抜きすれ違いが出来
出来る子も出来ない子も
共に楽しむことが出来る

枠間が狭いジャングル
ジムでは中では遊べず
遊具の外側だけで遊んで
いるのをよくみかける
でしょう



色は意欲を高め
識別しやすい
原色を

例えば雲梯渡り
同じ色から同じ色への
移動で二段飛ばしになる

特に色に関しては
眼の専門家や
美術の先生と随分
相談していきついた
色なんや

太さにも
こだわった

子供の握る力と
手の大きさを考えれば
26〜27mmが最適

これを木で
作ろうとすると
すぐに腐って
くるし、危ない

木製は大人目線では
子供に優しく自然と調和し
よく遊ぶと思いがちだが

子供が夢中になって
遊べる様に設計すると
遊具の構造には向いていない

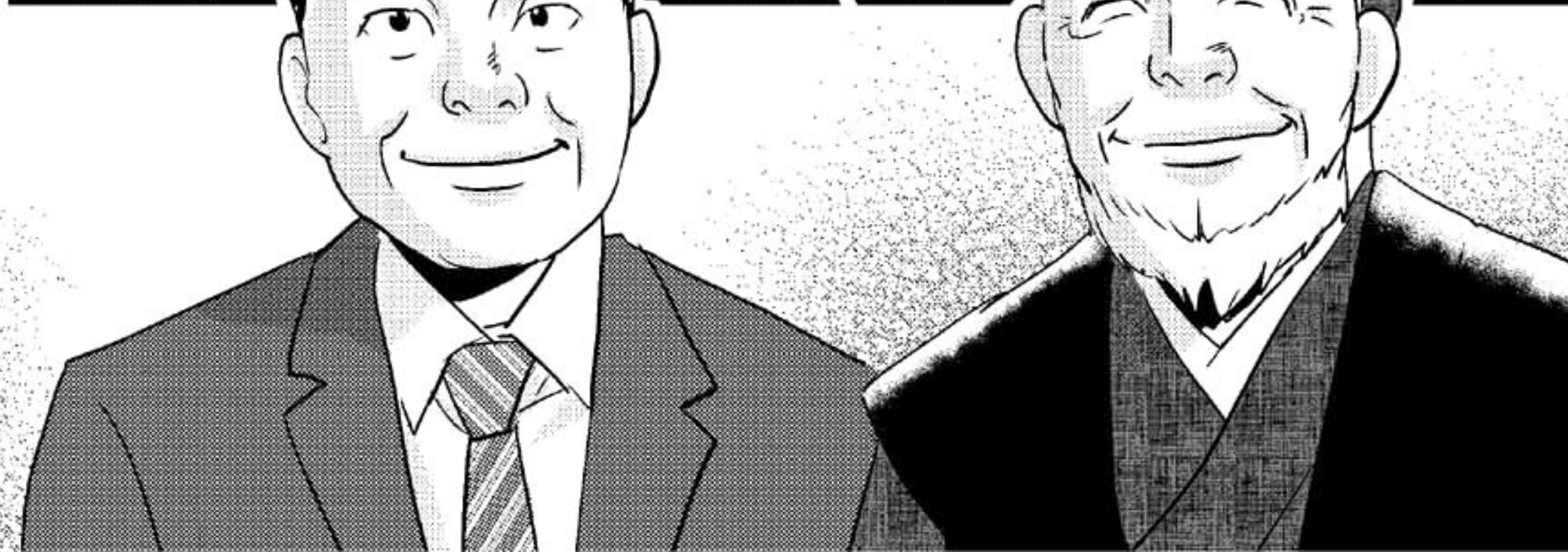
しかも鉄なら
握りやすさ、子供の
動線に合わせて
自由自在に曲げる
ことも出来る

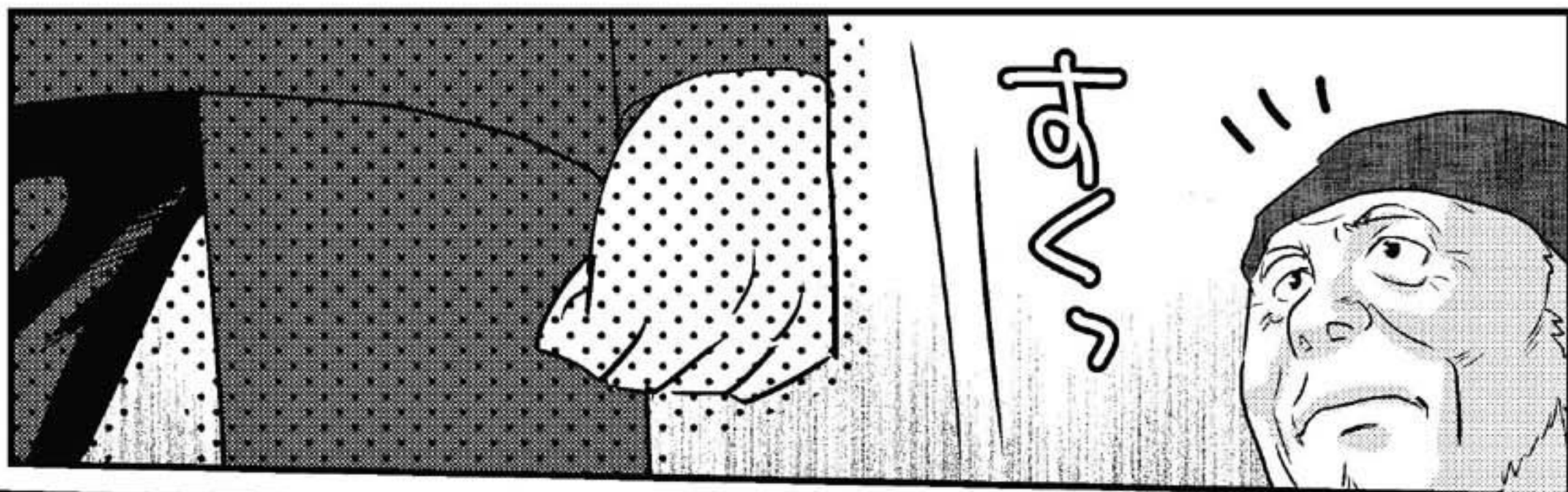
(後日、吉川は安田先生と共に
京都大学霊長類学会の
犬山モンキーセンターに赴き
鉄パイプの森で遊びまわる
猿たちを見て確信する)





さらに安田先生は
8ミリ映写機を取りだし
子供達がいきいきと
遊ぶ映像をみせてくれた





先生！
先生の遊具こそが
子供達の抱えている
問題を解決すると
確信いたしました！

私に先生が人生をかけて
研究された遊具を世に問う
お手伝いをさせて
頂けないでしょうか

やって
くれるか…

有名な建物には
設計士がいるように
遊具にも本当の
子供の遊びを
知る人が設計士で
あるべきなのだ
とよく判りました

先生の遊具は
世界初の
“遊びのプロ”が
考案設計した
遊具なのです！

この遊具で日本
いや世界の子供達を
元気にしたいのです

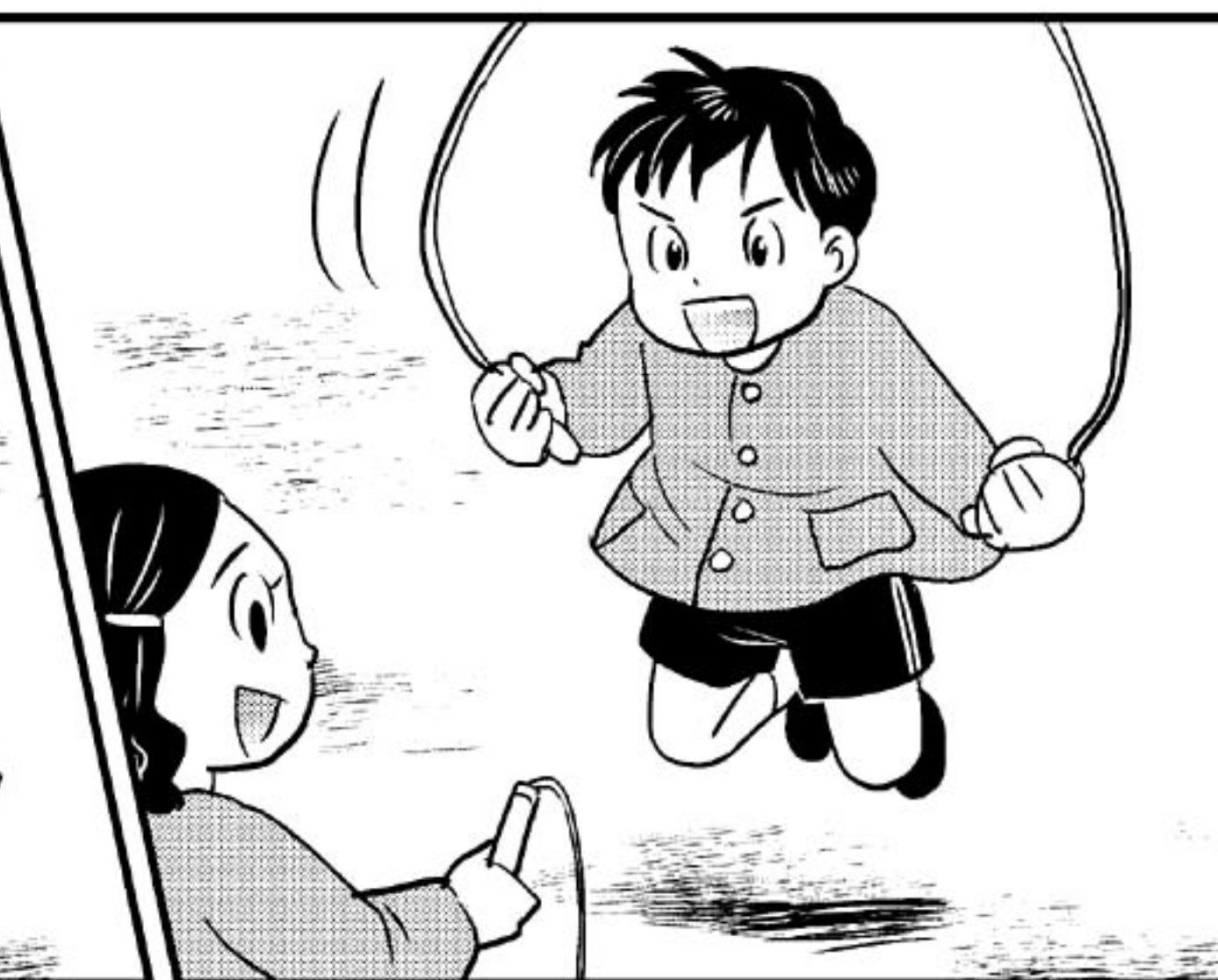
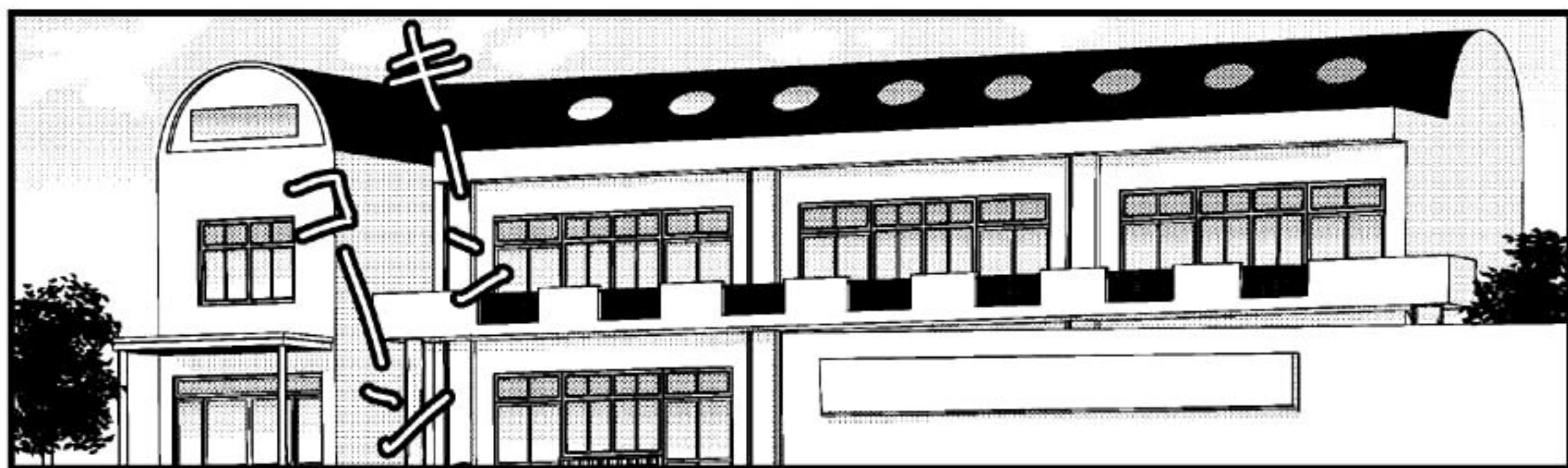
建物には設計料を払い
著作物には著作権料を
払うように

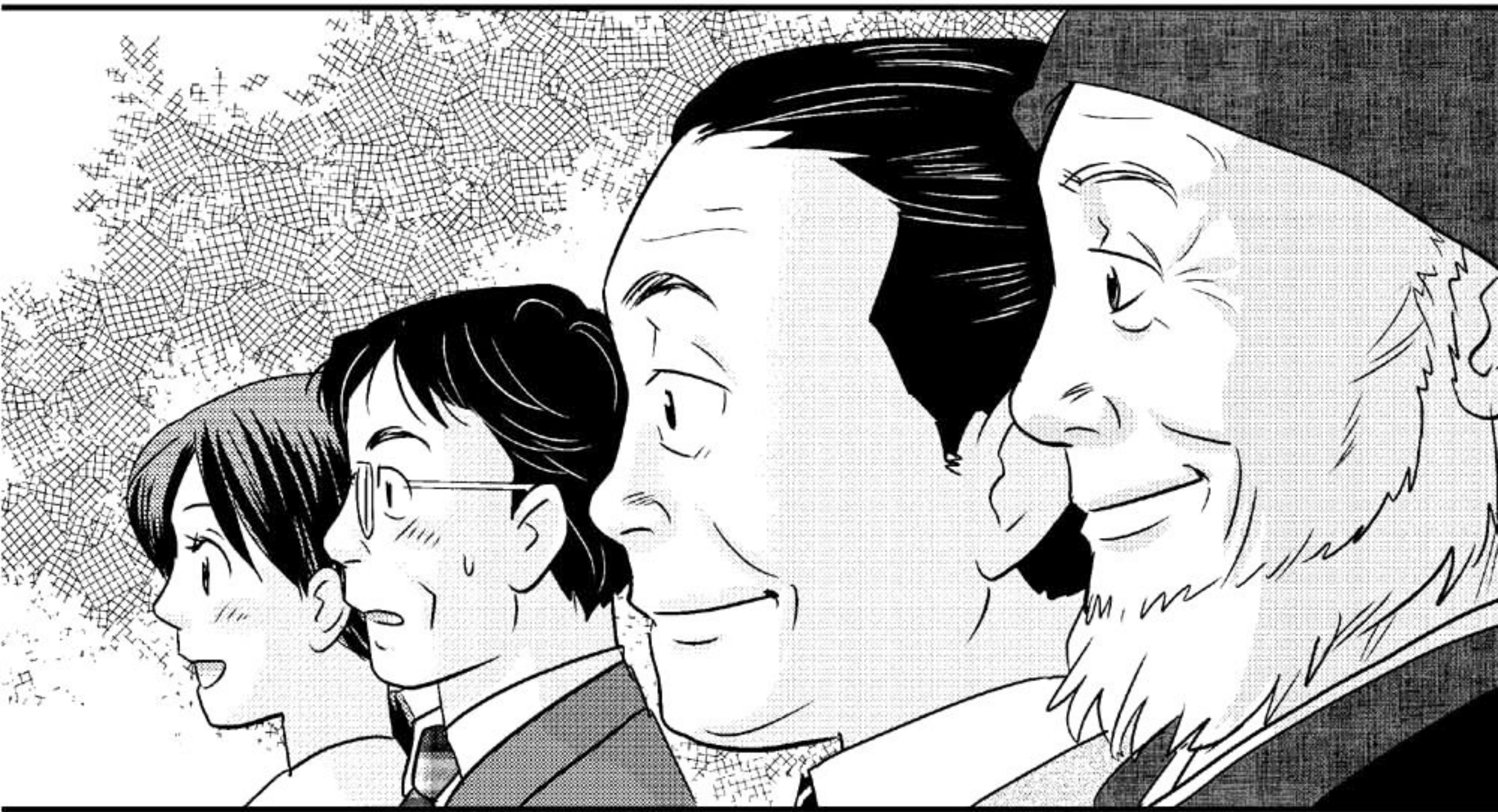
先生に考案設計料を
お支払いして引続き
研究を続けて
頂きたいのです

出来るか出来ないか
分かりませんが
すぐに帰って
弁理士や弁護士に
相談して契約書を
作ってきます！

ぜひ
やらせて
ください！

平成7年
吉川静雄は安田祐治先生の
意を受け膨大な量の設計図の
中から代表的な遊具を選定し
安田式遊具として世に問うべく
エール株式会社を設立した。











子供には子供の
目線と価値観がある
それをもっと大人が
大切にしなければならぬ

環境を与えるのは大人
そこで遊ぶのは子供

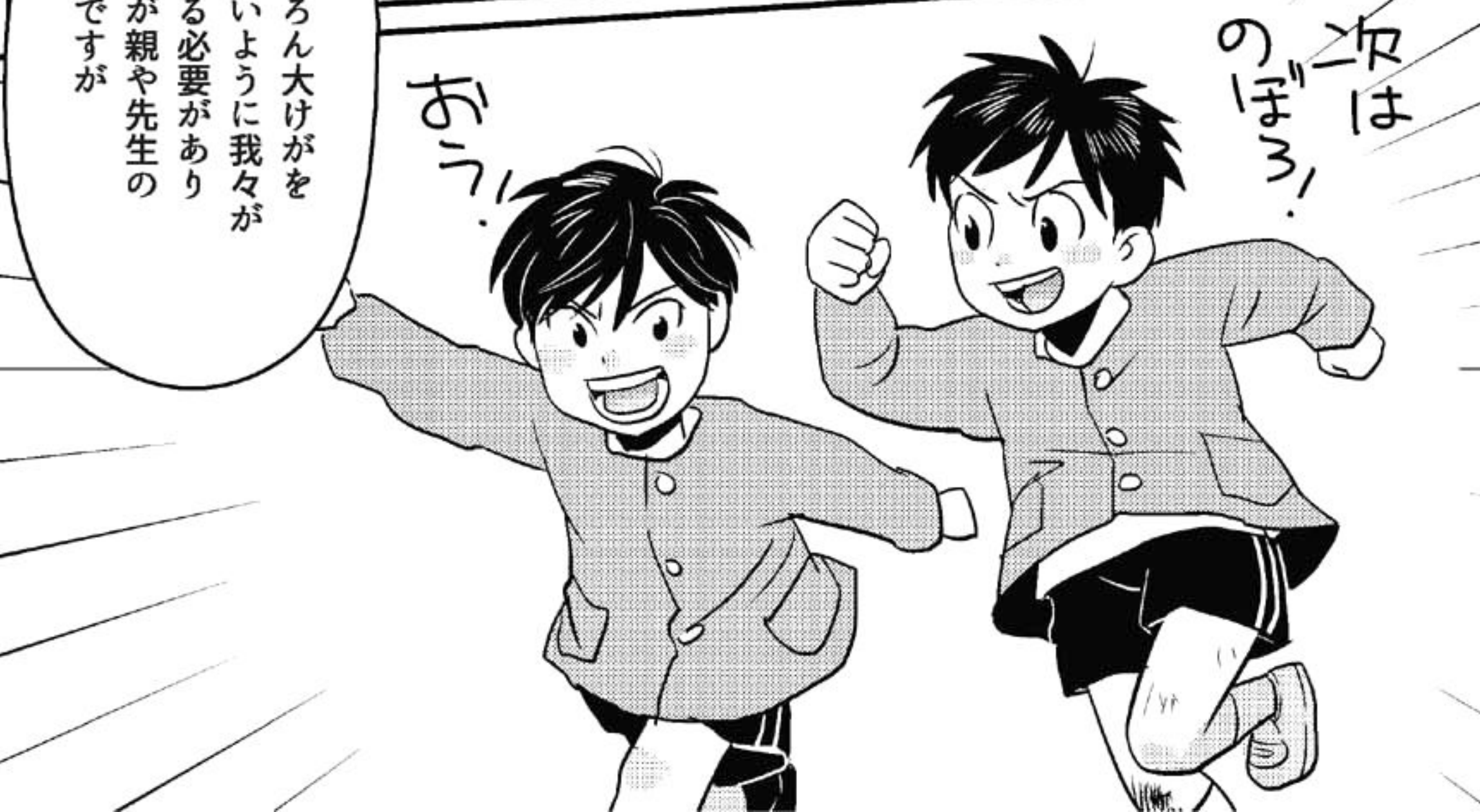
危ないからといって
遊びを規制し過ぎたり
道具や遊具を無くしても
何の解決にもならない

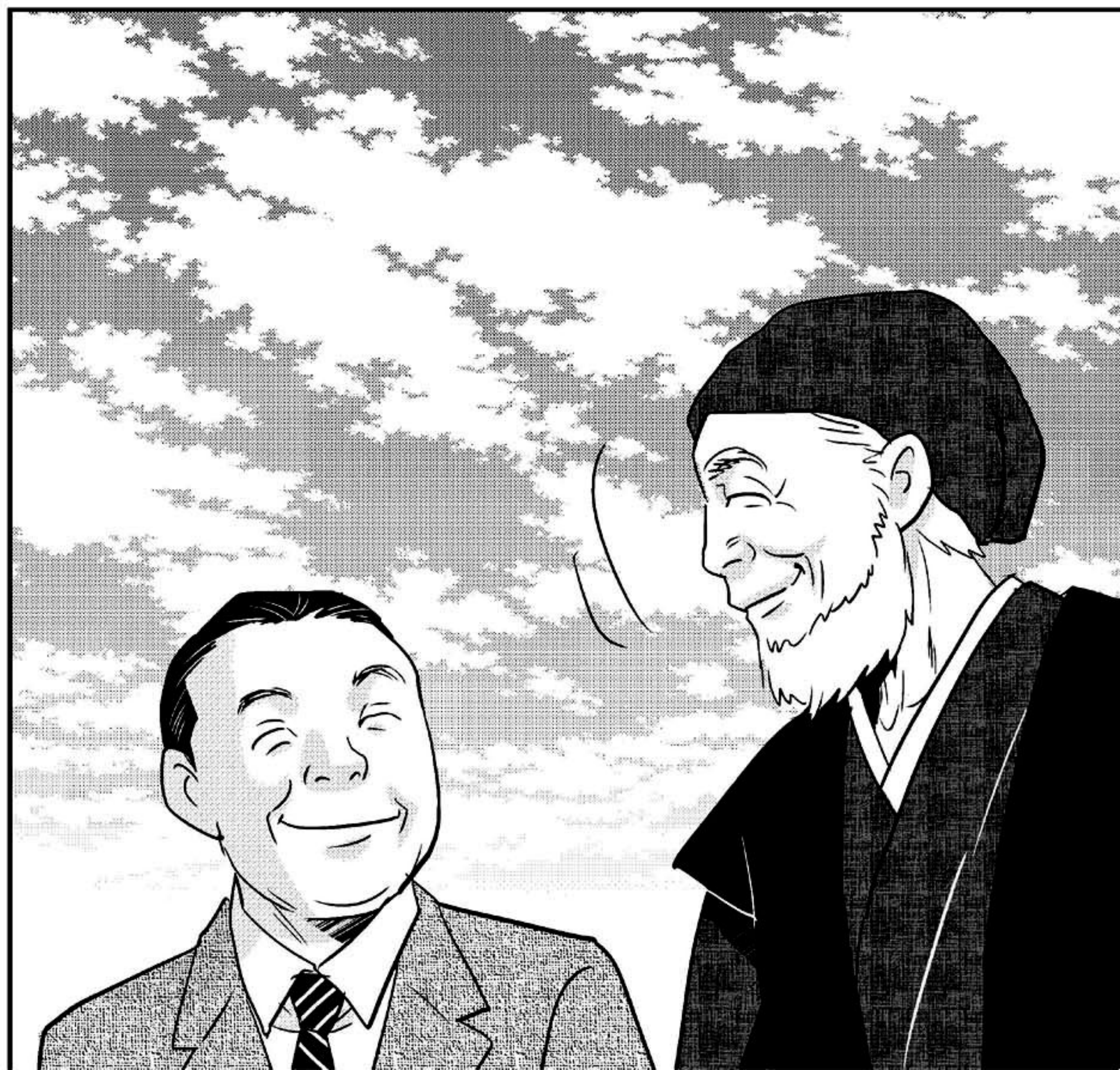
子供はすぐに
自転車に乗り
車を運転する
年齢になるけれど
それを止めさせる
事はしないでしょう

わはっはっはっ

子供の真の安全を問うなら
自分の身を守る為の
安全能力を養うべきです

そのために必要な
幼少年期の経験と遊びを
大人の価値観で
奪ってはならないのです







安田式遊具は
全国の1500以上の
幼稚園保育園小学校に
届けられ

安田氏の元で学び
意志を引継ぐ者達により
子供達との遊びの実践が
続けられています

各地での公開指導や
先生、保護者対象の
講演会も開催され
子供を育む環境づくりと
遊びの指導法についても
熱心に語り合われています



安田先生の想いは
吉川静雄との縁から
全国の熱心な教育者同士を
つなぎ今も
広がっています